例　言

1．本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1999年度の発掘調査報告書である。
2．発掘調査および整理作業は、国庫（3,600,000円）、県費（1,800,000円）の補助金の交付を受け、平成11年４月５日から平成12年3月31日まで実施した。
3．調査組織

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	髙﨑直成・鍋島直久
教育次長	石井忠夫	大井町臨時職員・発掘調査担当者	土本医
生涯学習課長	金子忠弘		

4．本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
編　　集：鍋島直久
執　　筆：本文･遺構 鍋島直久、縄文土器 今井堯
挿図割付：高橋けい子　　写真図版割付：青山奈保美　　土器・陶磁器復元：中田藤子　　表作成：植田勢津子
土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、須藤さち子、丹治つや子　　トレース：小林登喜江
土器拓影・図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子
遺構写真：坪田幹男、髙﨑直成、鍋島直久、土本　医　　遺物写真：鍋島直久、青山奈保美
土器・石器実測の一部を（有）ＪＡＷＳに委託した。
また、整理作業全般において日本考古学協会員の今井堯氏の援助と協力を得た。
5．各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
会田昭明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、石原聡、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、加藤智香子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、鈴木仁子、髙貝しづ子、高橋京子、田中信、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、(有)文化財ＣＯＭ。
6．発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
〈発掘調査参加者〉（敬称略）
新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、海老原サナエ、大曽根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤恵二、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、福田三枝子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
〈整理作業参加者〉（敬称略）
青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤弘一、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡　例

1．本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
(1) 縮尺は原則として
遺構配置図　1：300　遺構平面図・遺物出土状況図　1：60、1：30　炉などの詳細図　1：30
土器実測図　1：4　土器拓影図　1：3　石器実測図　1：3、2：3　銭　1：1
(2) 遺構断面図の水糸高は海抜高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海抜高に同じ。
(3) 遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示。
撹乱　地山（ローム）　焼土
土器 ●　石器 ★　黒曜石・チャート ▲　礫 ○
(4) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
(5) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。
2．住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3．本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第２表　1999年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡名	申請地	調査面積㎡	開発面積㎡	原因	調査期間	調査措置
1	亀居遺跡第51地点	亀久保３街区４画地	202	222	個人住宅	11.6.15～11.7.9	教育委員会で本調査
2	亀居遺跡第52地点	亀久保７街区14画地	30	121	個人住宅	12.2.1～12.2.2	試掘調査
3	江川南遺跡第10地点	東久保２街区９・10画地	18	133	個人住宅	11.5.24～11.5.26	試掘調査
4	江川南遺跡第11地点	東久保１―122―２・４	150	465	共同住宅	11.9.20～11.9.27 11.9.28～11.10.15	試掘調査後遺跡調査会で本調査
5	江川南遺跡第12地点	東久保２街区4・5画地	14	104	個人住宅	11.10.26～11.10.28	試掘調査
6	東久保遺跡第13地点	東久保381―５	10	162	個人住宅	11.11.2	試掘調査
7	東久保遺跡第14地点	東久保18街区３画地	330	823	共同住宅	11.6.29～11.7.16 11.7.19～11.7.29	試掘調査後遺跡調査会で本調査
8	東久保遺跡第15地点	東久保５街区14～16画地	9	178	個人住宅	11.8.2	試掘調査
9	東久保遺跡第16地点	東久保15街区１～５・32画地	132	334	個人住宅	11.10.1～11.10.6	試掘調査
10	東久保遺跡第17地点	東久保381―５	121	168	個人住宅	11.6.14～11.6.15	試掘調査
11	東久保遺跡第18地点	東久保27街区２画地	409	14,989	小学校グラウンド	11.11.30～11.12.15	試掘調査
12	東久保遺跡第19地点	東久保３街区９・10画地	40	108	店舗併用住宅	11.12.20～11.12.21	試掘調査
13	東久保遺跡第20地点	東久保４街区９画地	234	478	個人住宅	12.2.28～12.3.3	試掘調査
14	東久保遺跡第21地点	東久保18街区14画地	57	114	個人住宅	12.3.23～12.3.28	試掘調査
15	東久保遺跡第22地点	東久保15街区28画地	38	150	個人住宅	12.3.22～12.3.23	試掘調査
16	亀久保堀跡遺跡第21地点	東久保262・263・266	89	232	個人住宅	11.4.19～11.4.22	試掘調査
17	亀久保堀跡遺跡第22地点	東久保５街区７・20画地	40	99	個人住宅	11.6.10～11.6.12	試掘調査
18	亀久保堀跡遺跡第23地点	東久保14街区10画地	260	386	駐車場	11.10.4～12.10.8	試掘調査
19	亀久保堀跡遺跡第24地点	東久保６街区14画地	26	105	個人住宅	11.12.14～11.12.16	教育委員会で本調査
20	東久保西遺跡第８地点	東久保９街区13画地	52	135	個人住宅	11.11.2～11.11.5	試掘調査
21	東久保西遺跡第９地点	東久保14街区１・２・12画地	335	1,074	共同住宅	12.1.28～12.2.9	試掘調査
22	東中学校西遺跡第20地点	東久保39街区１画地	461	900	区画整理	11.6.16～11.7.19	試掘調査
23	東中学校西遺跡第21地点	東久保37街区１～３画地	733	1,311	店舗	11.11.18～11.12.9	試掘調査
24	東中学校西遺跡第22地点	東久保44街区15画地	56	150	個人住宅	12.3.7～12.3.9	試掘調査
25	東久保南遺跡第18地点	東久保48街区４画地	95	202	個人住宅	11.5.14～11.5.18	試掘調査
26	東久保南遺跡第19地点	東久保60街区６画地	188	466	駐車場	11.7.8～11.7.12	試掘調査
27	東久保南遺跡第20地点	東久保49街区１画地	367	1、106	店舗	11.12.22～12.1.15	試掘調査
28	西ノ原遺跡第113地点	大井苗間57・58街区	2,000	2,817	店舗	11.4.5～11.12.14 12.1.6～12.3.13	試掘調査後遺跡調査会で本調査
29	西ノ原遺跡第114地点	西ノ原194－1	272	676	駐車場	11.8.4～11.8.12	試掘調査
30	西ノ原遺跡第115地点	大井苗間52街区３画地	31	135	事務所	11.9.27～11.9.29	試掘調査
31	西ノ原遺跡第116地点	大井苗間59街区11画地	42	119	個人住宅	11.12.2～11.12.3	試掘調査
32	西ノ原遺跡第117地点	大井苗間199－２番地	42	131	店舗併用住宅	11.12.2～11.12.4	試掘調査
33	中沢前遺跡第18地点	大井苗間１丁目12番地	110	620	店舗併用共同住宅	11.7.21～11.7.28	試掘調査
34	中沢前遺跡第19地点	大井苗間32街区１・９画地	360	1,080	共同住宅	11.7.23～11.7.30	試掘調査
35	中沢前遺跡第20地点	大井苗間33街区１画地	231	374	駐車場	11.11.25～11.11.30	試掘調査
36	中沢前遺跡第21地点	大井苗間32街区４・５画地	19	120	個人住宅	11.11.29～11.11.30	試掘調査
37	神明後遺跡第10地点	苗間298－１	3	44	個人住宅	11.9.16	試掘調査
38	神明後遺跡第11地点	苗間366	97	239	個人住宅	11.10.21 11.10.22～11.10.26	試掘調査後教育委員会で本調査
39	神明後遺跡第12地点	苗間282－２・５	8	211	共同住宅	12.3.6	試掘調査
40	苗間東久保遺跡第21地点	苗間神明後333－1	95	350	個人住宅	11.8.3～11.8.6	試掘調査
41	浄禅寺跡遺跡第18地点	苗間345－３・４	303	599	個人住宅	11.5.26～11.6.24 11.6.26～11.8.3	試掘調査後教育委員会で本調査

Ⅲ　江川南遺跡の調査

1　遺跡の立地と環境

江川南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約300～500m程下った右岸に位置している。標高20～21mで現谷底との比高差は約１～２mを測る。福岡江川の北側は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側の台地は緩やかに傾斜する。遺跡周辺は川越街道に隣接しており、急激な市街化によって大きく変貌している。

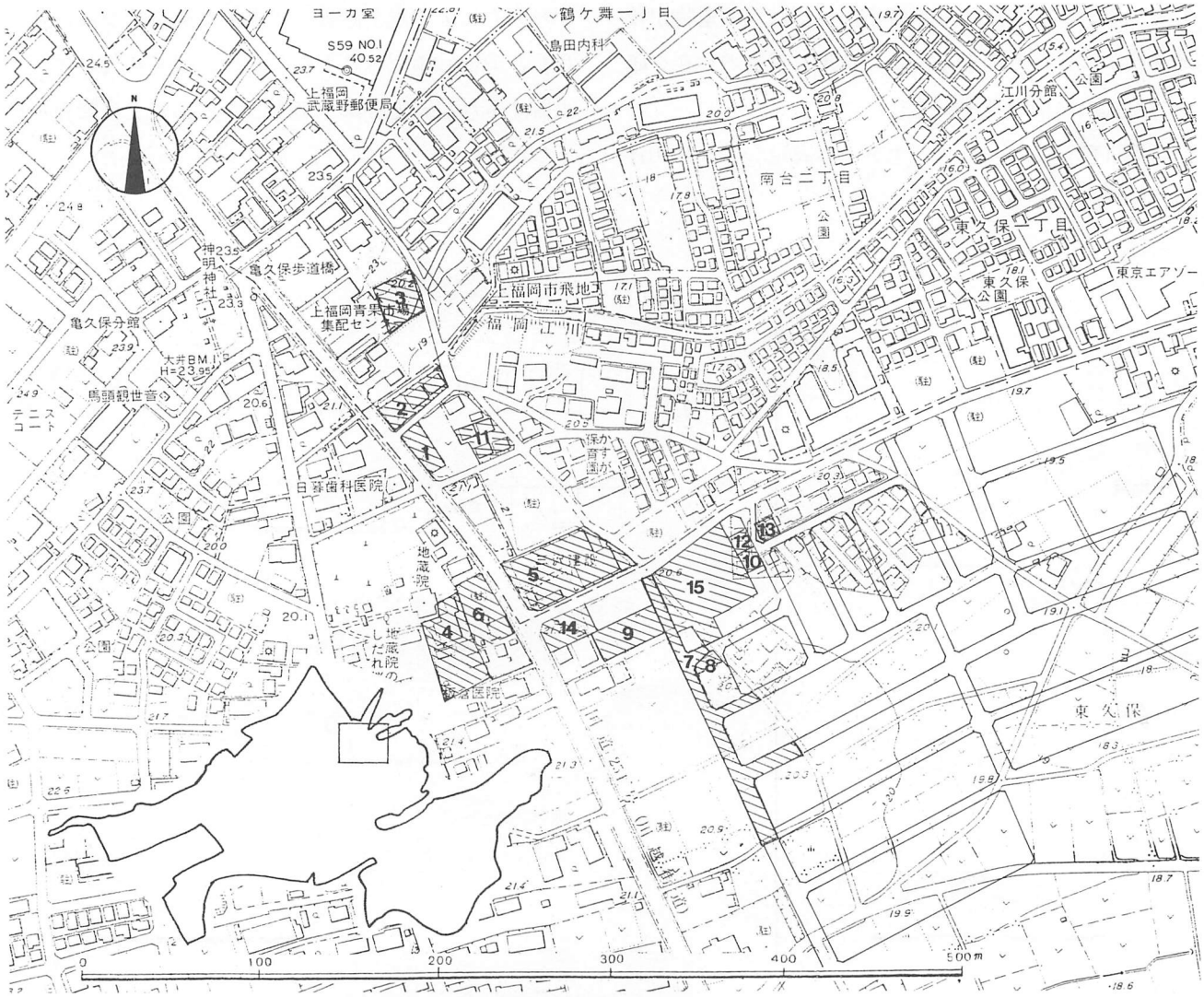
周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に縄文時代中期前葉の単一集落の亀居遺跡と、鶴ケ舞遺跡が位置する。福岡江川右岸で本遺跡の西側約150mに、平安時代の遺物を出土する江川東遺跡、さらにその西側約50mに旧石器時代の礫群を検出する東久保遺跡が位置する。

本遺跡の最初の調査は1977年に町史編纂事業の一環として行なわれ、2001年３月現在15ヶ所で試掘調査および発掘調査が行なわれている。なお1985年調査の地蔵院遺跡第1地点は江川南遺跡第６地点に変更した。

本遺跡はこれまでの調査で、旧石器時代では礫群、石器ブロックが検出されている。

縄文時代中期前葉では炉体土器を伴う住居跡１軒が検出され、亀居遺跡（第３図）の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前半の遺跡の在り方として特異な様相が窺える。

中・近世では、地蔵院に関係する18世紀前半の陶磁器類が池状遺構から多数出土している。地蔵院は、南北朝期の二階堂氏との関係から氏の館跡との想定もされており、近年の発掘調査では、当該期に遡るとみられる断面箱薬研状の堀跡が確認され、その他の遺物や遺構の確認等が今後の課題であろう。



第16図　江川南遺跡の地形と調査区（１／4,000）

2　江川南遺跡第10地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より1999年４月19日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東端に位置している。原因者と協議の結果、遺跡の範囲確認と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

調査は幅約１ｍのトレンチを２本設定し、５月24日から重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。しかし、遺構や遺物は確認されなかったため５月26日調査を終了した。

3　江川南遺跡第11地点

（1）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より1999年９月８日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北端に位置している。周辺部の調査から堀跡や旧石器時代の遺物が確認されており、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

調査は幅約２ｍのトレンチを４本設定し、９月20日から重機による表土除去を行なった。重機は申請者代理人の市川建設㈱の協力を賜った。人力による調査で堀跡と旧石器を確認したため原因者と再協議し、原因者負担による本調査を実施することとした。本調査により、武蔵野・立川ローム層第Ⅵ～Ⅳ層に対比される層位から旧石器時代石器ブロック４基、礫群５基、中世の堀跡１本・土壙墓１基が確認された。

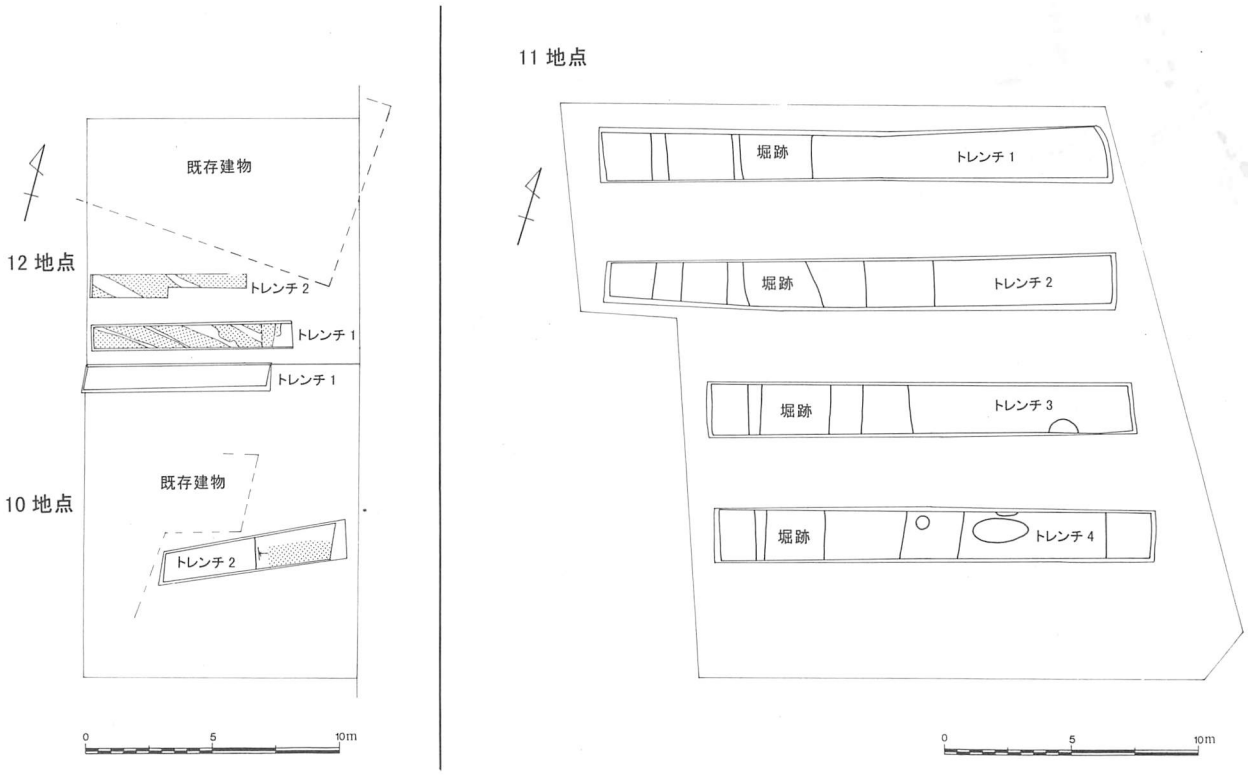
（大井町遺跡調査会で報告書刊行予定。）

4　江川南遺跡第12地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より1999年10月13日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東端に位置している。原因者と協議の結果、遺跡の範囲確認と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

調査は幅約１ｍのトレンチを２本設定し、10月26日から人力による表土除去後に表面精査を行なった。しかし、遺構は確認されなかったが、縄文時代の無文の土器片１点が表土層より出土した。10月28日調査を終了した。

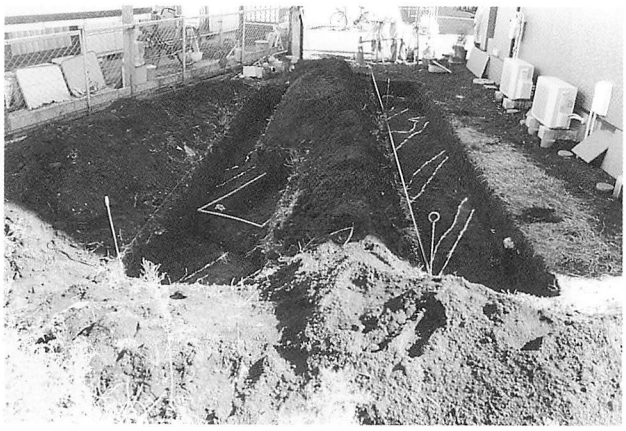


第17図　江川南遺跡第10・11・12地点調査区域図（１／300）

図版　8　江川南遺跡第11・12・13地点・東久保遺跡第14・15・16地点

江川南遺跡第11地点試掘トレンチ１

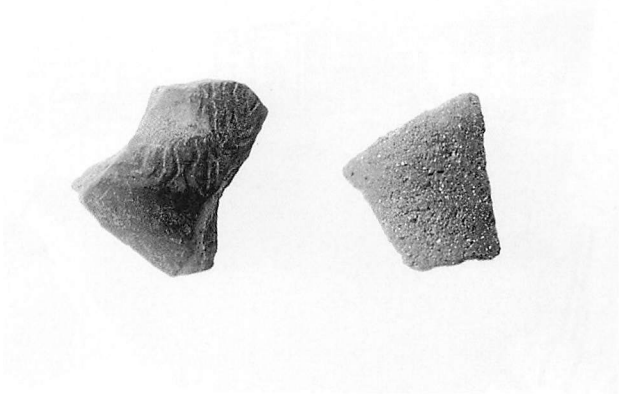
江川南遺跡第11地点近景



江川南遺跡第12地点試掘近景

東久保遺跡第13地点試掘近景

東久保遺跡第14地点試掘



東久保遺跡第14地点出土土器

東久保遺跡第15地点試掘近景

東久保遺跡第16地点試掘近景

江川南遺跡第11地点　礫群１

江川南遺跡第11地点　出土遺物

凡　　例

1．本書の遺構挿図の指示は以下のとおりである。

（1）縮尺はその都度図中に示している。

（2）遺構断面図の水糸高は海抜を示す。

（3）遺構図における screen-tone の指示は以下のとおりである。また、遺物出土状況のドットの指示はその都度図中に示している。

地 山　　撹 乱　　焼 土

炭化物・層　　石　　遺 物

2．住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3．本書の遺物挿図の指示は以下のとおりである。

（1）遺物番号は地点ごとに１からはじまる。

（2）砥石実測図の断面における矢印の表示は、実線が砥面を、一点鎖線が加工痕の残存面を表す。

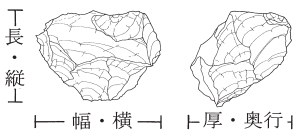
（3）遺物実測図における screen-tone の指示は以下のとおりである。

縄文土器断面図 繊維の混入

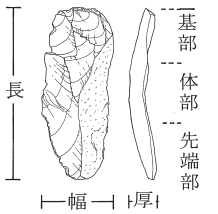
4．旧石器・縄文土器・縄文石器の出土遺物観察表に記載した計測部位及び遺存部位は以下のとおりである。

〈石核〉

最終剥離面を正面とする。



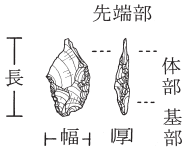
〈剥片・その他の剥片石器およびRF〉



遺存部位
A. 基部+体部+先端部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋先端部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 先端部
D. 縦割れ
E. その他・不明

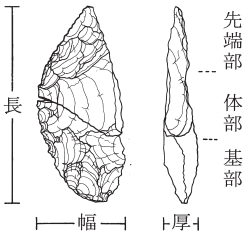
〈ナイフ形石器/尖頭器〉

ナイフ形石器

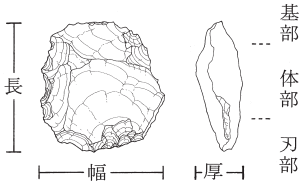


遺存部位
A. 基部+体部+先端部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋先端部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 先端部
D. 縦割れ
E. その他・不明

尖頭器



〈スクレイパー（石匙を含む）〉



遺存部位
A. 基部+体部+刃部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋刃部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 刃部
D. 縦割れ
E. その他・不明

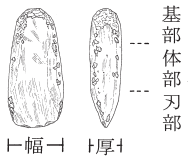
〈石鏃〉

素材剥片の背面を上面とする。

遺存部位
A. 先端部＋体部＋両脚
B. 先端部＋体部＋片脚
C1. 先端部＋体部
C2. 両脚＋体部
C3. 片脚＋体部
D1. 先端部
D2. 体部
D3. 両脚
D4. 片脚
E. 縦割れ
F. その他・不明

〈磨製石斧/打製石斧〉

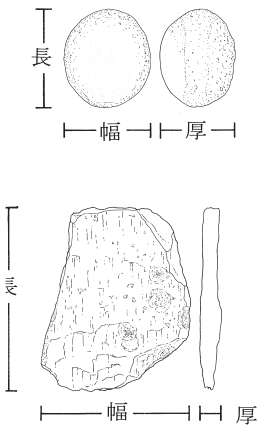
磨製石斧



遺存部位
A. 基部+体部+刃部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋刃部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 刃部
D. 縦割れ
E. その他・不明

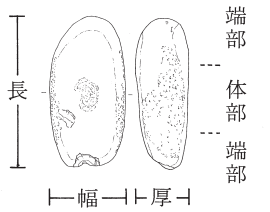
打製石斧

〈磨石/凹石〉



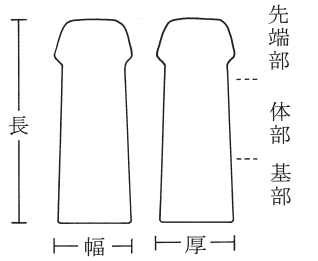
遺存部位
A.完形
B.残存率　3/4～
C.残存率　1/2～3/4
D.残存率　1/4～1/2
E.残存率　1/4以下

〈敲石/石錘〉



遺存部位
A.端部＋体部＋端部
B.端部＋体部
C1.端部
C2.体部
D.縦割れ
E.その他・不明

〈石棒〉



遺存部位
A.先端部+体部+基部
B1.先端部＋体部
B2.体部＋基部
C1.先端部
C2.体部
C3.基部
D.縦割れ
E.その他・不明

5．旧石器・縄文時代の遺物は以下のように分類した。

旧石器　石器分類表

器　種	群	類		器　種	群	
細石刃	（細分類無し）			剥片類	Ⅰ	二次加工ある剥片（ＲＦ） または使用痕ある剥片（ＵＦ）
尖頭器	（細分類無し）				Ⅱ	縦長剥片（石刃含む）
ナイフ形石器	Ⅰ	縦長剥片（石刃含む）使用			Ⅲ	横長剥片
		1	一側縁調整		Ⅳ	石核調整剥片
		2	二側縁調整		Ⅴ	その他の剥片
		3	基部調整		Ⅵ	砕片（チップ）
		4	切出し形			
	Ⅱ	横長剥片使用		石核	Ⅰ	細石刃核
		1	一側縁調整		Ⅱ	石刃核
		2	二側縁調整		Ⅲ	その他の石核
		3	基部調整	石斧	Ⅰ	打製石斧
		4	切出し形		Ⅱ	局部磨製石斧
	Ⅲ	不定形剥片使用			Ⅲ	磨製石斧
		1	一側縁調整	礫器	Ⅰ	片面調整礫器
		2	二側縁調整		Ⅱ	両面調整礫器
		3	基部調整	敲打器	Ⅰ	成形・調整無し
		4	切出し形		Ⅱ	成形・調整あり
角錐状石器	（細分類無し）			磨石	（細分類無し）	
スクレーパー類	Ⅰ	削器		石皿	（細分類無し）	
	Ⅱ	掻器		砥石	（細分類無し）	
	Ⅲ	彫器				

縄文　石器分類表

器　種	群	類		器　種	群	類	
尖頭器	（細分類無し）			石皿	Ⅰ	使用面が皿状に凹む	
石鏃	Ⅰ	無茎				1	凹石と併用する
	Ⅱ	有茎				2	凹石と併用しない
礫器	（細分類無し）				Ⅱ	使用面が平坦	
スタンプ形石器	Ⅰ	側縁無調整				1	凹石と併用する
	Ⅱ	側縁調整あり				2	凹石と併用しない
抉入磨石	（細分類無し）			砥石	（細分類無し）		

打製石斧	Ⅰ	短冊形		敲打器	Ⅰ	成形・調整無し	
		1	両側縁が直線的でほぼ平行し、基部～先端部の幅がほぼ一定		Ⅱ	成形・調整あり	
		2	1類に近いが、両側縁がやや外に膨らむ	石匙	Ⅰ	精製	
		3	先端部側がやや広がる			1	横長
		4	先端部側がやや狭まる			2	縦長
		5	両側縁に括れがある		Ⅱ	粗製	
		6	全体に湾曲ないし屈折した平面形を呈する			1	横長
						2	縦長
	Ⅱ	撥形		スクレーパー	Ⅰ	削器	
		1	側縁・先端とも直線的で、定角式的な形状		Ⅱ	掻器	
		2	全体に丸みを帯びる		Ⅲ	彫器	
	Ⅲ	分銅形		剥片類	Ⅰ	2次加工ある剥片。所謂ＲＦ	
	Ⅳ	その他			Ⅱ	使用痕ある剥片。所謂ＵＦ	
		1	略円形または楕円形の平面形を呈する		Ⅲ	石核調整剥片	
		2	不定形		Ⅳ	その他の剥片	
磨製石斧	Ⅰ	乳棒状			Ⅴ	砕片	
	Ⅱ	定角式		石核	（細分類無し）		
磨石	Ⅰ	平面形が円形		楔状石器	（細分類無し）		
		1	厚い	錐（ドリル）	（細分類無し）		
		2	扁平	石錘	Ⅰ	抉入が1対	
	Ⅱ	平面形が長円形～棒状				1	切り目あり
		1	厚い			2	切り目なし
		2	扁平		Ⅱ	抉入が2対以上	
	Ⅲ	平面形が隅丸方形または隅丸長方形				1	切り目あり
		1	厚い			2	切り目なし
		2	扁平	石棒	（細分類無し）		

縄文　土器分類表

6期区分	群	類		6期区分	群	類	
草創期				中 期	Ⅴ	中期後葉の加曾利Ｅ式土器	
早 期	Ⅰ	撚糸文土器				1	「加曾利Ｅ式直前」段階
	Ⅱ	押型文土器				2	加曾利ＥⅠ式古段階
	Ⅲ	沈線文土器				3	加曾利ＥⅠ式新段階
	Ⅳ	擦痕文・条痕文土器				4	加曾利ＥⅡ式古～中段階
		1	無文または擦痕文			5	加曾利ＥⅡ式中～新段階
		2	条痕文		Ⅵ	中期末葉の加曾利Ｅ式土器	
		3	貝殻文			1	加曾利ＥⅢ式
前 期	Ⅰ	前半（関山・黒浜式）				2	加曾利ＥⅣ式
	Ⅱ	後半（諸磯・十三菩提式）			Ⅶ	連弧文土器	
中 期	Ⅰ	中期初頭				1	隆帯または微隆起線による連弧文
		1	五領ヶ台Ⅰ式			2	沈線による連弧文
		2	五領ヶ台Ⅱ式		Ⅷ	曾利式及び曾利式系統の土器	
		3	五領ヶ台～狢沢のいわゆる中間型式		Ⅸ	有孔鍔付土器	
	Ⅱ	中期前葉の勝坂式系統の土器		後 期	Ⅰ	後期初頭の加曾利Ｅ式系統の土器	
		1	狢沢式		Ⅱ	称名寺式	
		2	勝坂Ⅰ式			1	Ⅰ式古段階
	Ⅲ	中期中葉の勝坂式系統の土器				2	Ⅰ式新段階
		1	勝坂Ⅱ式			3	Ⅱ式
		2	勝坂Ⅲ式		Ⅲ	堀之内式	
	Ⅳ	阿玉台式系統の土器				1	1式
		1	阿玉台Ⅰａ～Ⅰｂ式			2	2式
		2	阿玉台Ⅱ式		Ⅳ	加曾利Ｂ式	
		3	阿玉台Ⅲ～Ⅳ式			1	1式
		4	胎土により阿玉台式に比定しうるが、文様構成は勝坂式的である土器			2	2式
					Ⅴ	曽谷式	
				晩 期			

縄文土器分類における「類」は、原則として同一「群」内で時系列順（旧→新）に設定した。

縄文　地文分類表

分 類		分 類	
a	矢羽状沈線文	r	刺突文／列点文
b	半截竹管の腹による条線文	s	櫛歯状条線文
j	縄文	w	集合沈線による波状文（流水文）
l	集合沈線文／太目の条線文	y	撚糸文
n	無文		

Ⅱ　江川南遺跡の調査

1　遺跡の立地と環境（第３図）

江川南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約300～500ｍ程下った右岸に位置している。標高20～21ｍで現谷底との比高差は約１～２ｍを測る。福岡江川の北側は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側の台地は緩やかに傾斜する。遺跡周辺は川越街道に隣接しており、急激な市街化によって大きく変貌している。

周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に縄文時代中期前葉の単一集落の亀居遺跡と、鶴ヶ舞遺跡が位置する。福岡江川右岸で本遺跡の西側約150ｍには、平安時代の遺物を出土する江川東遺跡と、西側約50ｍに旧石器時代の礫群を検出する東久保遺跡が位置する。

本遺跡の最初の調査は1977年に町史編纂事業の一環として行われ、これまでに20カ所で試掘調査および発掘調査が行われている。なお、1985年調査の地蔵院遺跡第１地点は江川南第６地点に変更した。

本遺跡はこれまでの調査で、旧石器時代、縄文時代、中・近世の成果が得られている。

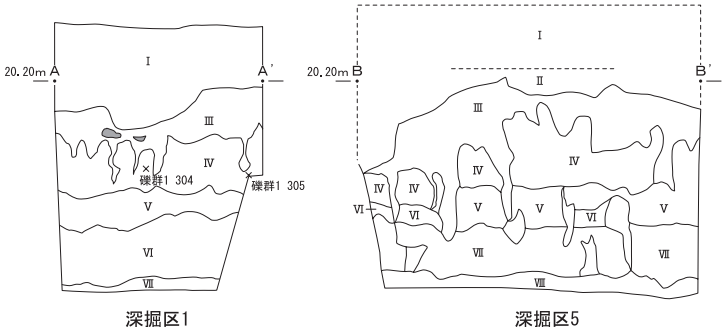
旧石器時代では、第２地点において礫群３基、第19地点で礫群２基が検出された他、石器ブロック、表採遺物のナイフ形石器などが発見されている。

縄文時代では、炉体土器を伴う中期前半の住居跡４軒（第１・４・20地点）が検出され、亀居遺跡の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡の在り方として特異な様相が窺える。

古代では、断面逆台形の堀跡が複数の調査地点にて確認されており、1997年に「№22　亀久保堀跡遺跡」として新たに遺跡範囲を登録した。亀久保堀跡遺跡においては、これまでのところ年代を決定し得る遺物は

第３図　江川南遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第４図　江川南遺跡第11地点　全体図（1/200）



基本層序
Ⅰ．黒褐色土．粘性・締まりなし．客土．ゴミ多数
Ⅱ．黒褐色土．粘性・締まりなし．砂質土
Ⅲ．黄褐色土．粘性・締まりなし．ソフトローム土．白色砂多量
Ⅳ．暗黄褐色土．粘性有．締まりなし．
　ハードローム土(橙色、1～2mm)．白色砂含む
Ⅴ．暗黄褐色土．粘性有．締まりなし.Ⅲ'層と類似するが、色調は若干暗い
Ⅵ．暗黄褐色土．粘性有．締まりなし.Ⅳ'層と色調は同(やや白色が少ない)．
　明黄褐色ロームブロックを斑状に含む
Ⅶ．暗褐色土．粘性有．締まりなし
Ⅷ．明黄褐色土．粘性有．締まりなし.黒色土粒少量．青色土粒含む

第５図　江川南遺跡第11地点　基本層序（1/40）

第１表　江川南遺跡第11地点　遺構一覧表

( )内は残存値及び確認された規模，備考欄の写真図版番号

図版番号	遺構名	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	標高(m)	主軸方位	遺物	時期	備考
4・17	堀	H～J1～11	断面 逆台形	〈2100〉	200～300	70～90	19.30～19.18	N-21°-W	×	古代	南・北両側は調査区外に延びる
4・17	溝	B～J10.11	断面 V字形	〈1550〉	100	58	19.25	N-70°-E	×	中世	東・西両側は調査区外に延びる
4・18	土坑1	C.D6.7	長方形	192	98	56	19.55	N-54°-E	×		
4・18	土坑2	D.E8.9	長方形	222	(77)	42	19.67	N-70°-E	×		
4	土坑3	A.B10	長方形か	85	(58)	135	18.35	－	×		東南側は調査区外に延びる
4・18	土坑4	F8.9	楕円形	86	60	31	19.80	N-78°-W	○	中世	人骨出土、渡来銭3

出土していないが、テフラ分析の結果によると、９世紀に遡る可能性が指摘されている。

中・近世では、第６地点において、地蔵院に関係するとみられる18世紀前半の陶磁器類が池状遺構から多数出土している。地蔵院は、南北朝期の二階堂氏との関係から氏の館跡との想定もされている。

２　江川南遺跡第11地点

（１）調査の概要

本地点は江川南遺跡の北部に位置し、福岡江川より南約80ｍに位置し、南西約50ｍの位置に先述の地蔵院がある。

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より1999年９月８日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地周辺部の調査では、堀跡や旧石器時代の遺物が確認されており、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約２ｍのトレンチを４本設定し、９月20日から重機による表土除去を行った。重機は申請者代理人の市川建設㈱の協力を賜った。人力による調査で堀跡と旧石器を確認したため原因者と再協議し、原因者負担による本調査を実施することとした。本調査は９月27日から10月15日にかけて実施され、旧石器時代の礫群３カ所および石器集中、縄文時代のピット群１、古代以降の堀１条・溝１条・土坑４基が検出された。

（２）遺構と遺物（第４～23図、第１～４表、巻頭図版１、図版１～４）

〔旧石器・縄文時代〕

旧石器時代では、礫群が３カ所確認されている。いずれも、標高19.4m付近を主体とした垂直分布を呈し、基本層序（第５図）Ⅴ層下部～Ⅶ層上部（立川ローム層第Ⅳ層下部～Ⅴ層に対比される）に帰属するものと考えられる。大部分の礫が、被熱による赤化が認められる破礫である。

【礫群１】調査区北東部、Ｃ１～Ｅ２の範囲に位置し、合計約30kgの礫が検出された。礫が特に集中する部分が４カ所認められる（第７図　1-1～1-4）。本範囲からは、多量の石器および剥片・砕片が検出されている。

【礫群２】調査区西側、主にＪ２～Ｌ２の範囲に位置し、合計約11kgの礫が検出された。礫が特に集中する部分が３カ所認められる（第９図　2-1～2-3）。本範囲からは、少量の石器が検出されている。

【礫群３】調査区北東部、Ｂ２～Ｃ４の範囲に位置し、合計約19kgの礫が検出された。礫は南北２カ所の纏まりに分かれる（第11図　3-1・3-2）。本範囲からは、少量の石器が検出されている。

また、調査区中央やや北寄り、Ｆ２～Ｇ５の範囲にて、石器集中部の存在が確認された（第13・14図）。垂直分布は標高19.4～19.5ｍ付近を主体とし、礫群同様、主に基本層序Ⅴ層下部～Ⅶ層上部に帰属するものと考えられる。

旧石器時代遺物は、合計で石器269点・礫約420点が出土した。石器器種の内訳は、ナイフ形石器22点・角錐状石器３点・細石刃１点・スクレーパー19点・石核13点・磨石３点・剥片類および砕片208点である。石器石材は、黒曜石が大半を占め、他にはチャート・珪質頁岩・頁岩・砂岩・ホルンフェルス・安山岩等が認められる。

石器全体の垂直分布は、19.755～18.984ｍの範囲であり、基本層序（第５図）Ⅳ層下部～Ⅷ層上部（立川ローム層第Ⅳ～Ⅵ層に対比される）からの出土である。

１～19は、礫群１の範囲およびその付近より出土した遺物。

１は、黒曜石製のナイフ形石器で、横長に近い不定形剥片を使用した切出し形。側縁調整は鋸歯状を呈する。

２は、黒曜石製のナイフ形石器。不定形剥片を使用し、切出し形に近い形状を呈する。一側縁に鋸歯状の調整が施され、反対側の側縁に使用痕とみられる微細剥離が認められる。

３は、黒曜石製のナイフ形石器。横長剥片使用・一側縁調整。

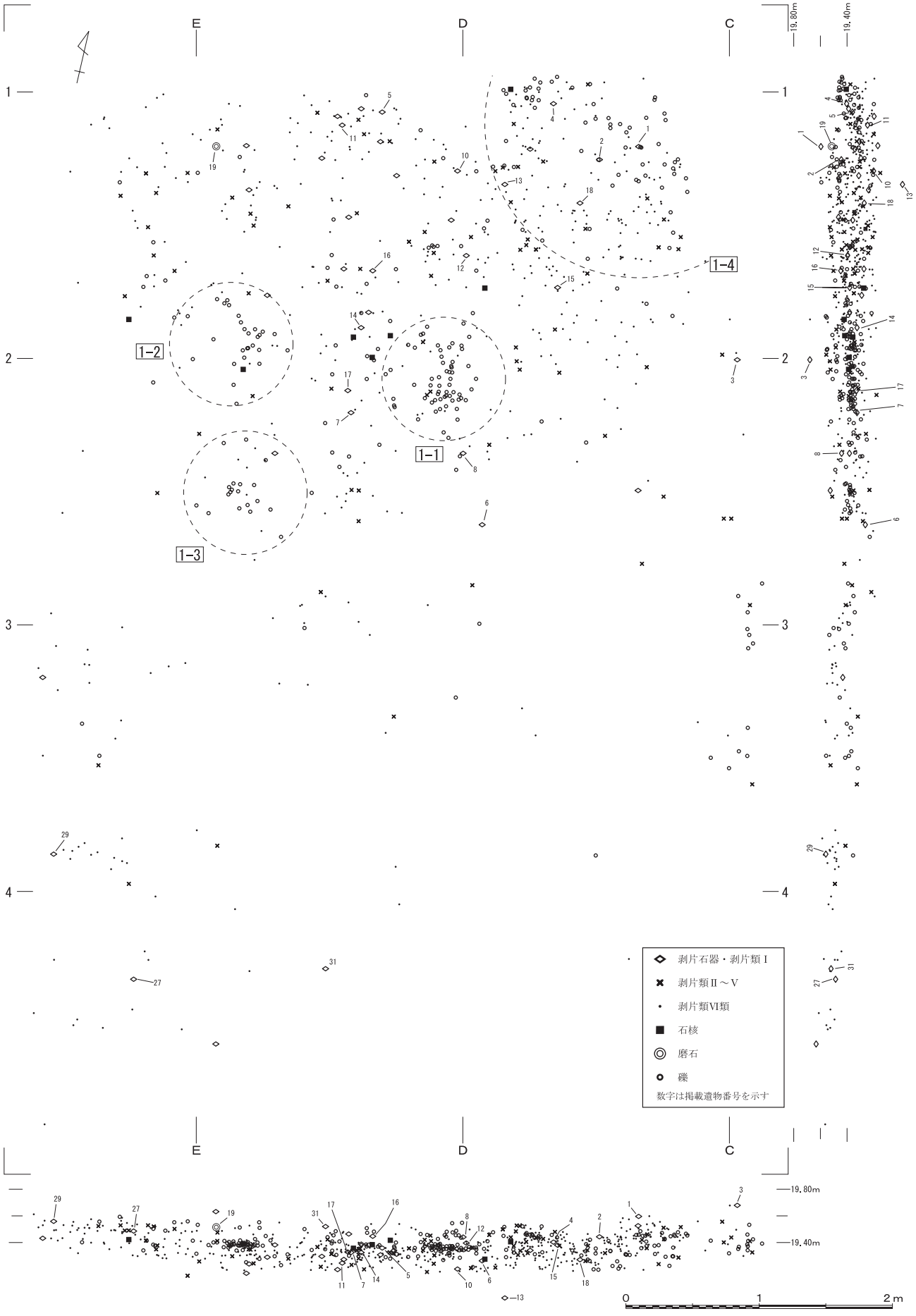
４は、黒曜石製のナイフ形石器。横長剥片を折断により形状変更し、一側縁の先端側に鋸歯状の調整が施した製品。反対側の側縁には、使用痕とみられる微細剥離が認められる。

５は、黒曜石製のナイフ形石器。横長に近い不定形剥片を使用し、二側縁調整が施される。

６は、黒曜石製のナイフ形石器。不定形剥片使用・一側縁調整。

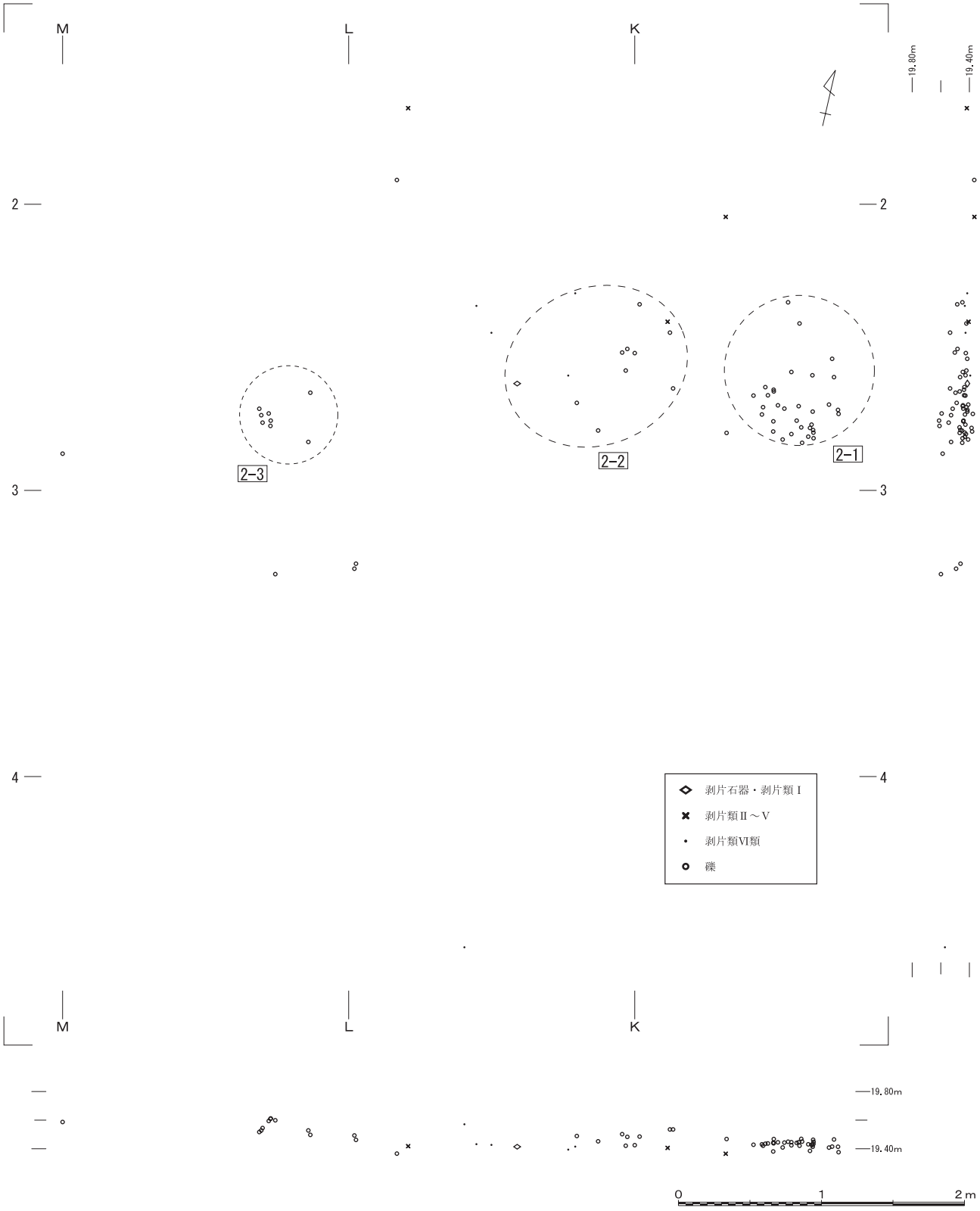
７は、縦長剥片使用・一側縁調整のナイフ形石器。石材は、風化が著しく判別が困難だが、ガラス質黒色安山岩またはホルンフェルスであろうか。

第６図　江川南遺跡第11地点　旧石器時代遺物出土状況　全体図（1/100）

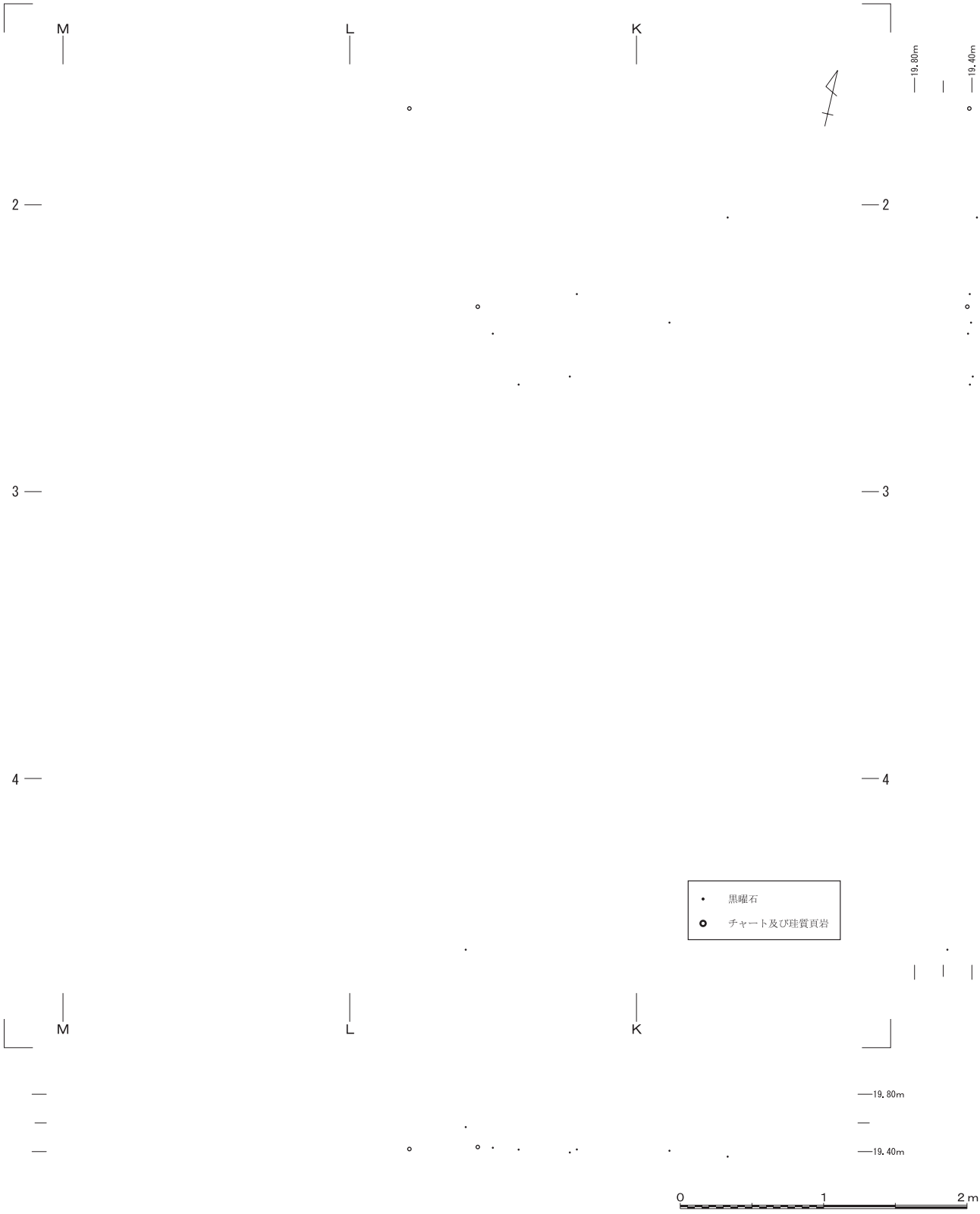


第７図　江川南遺跡第11地点　礫群１　器種別出土分布図（1/40）

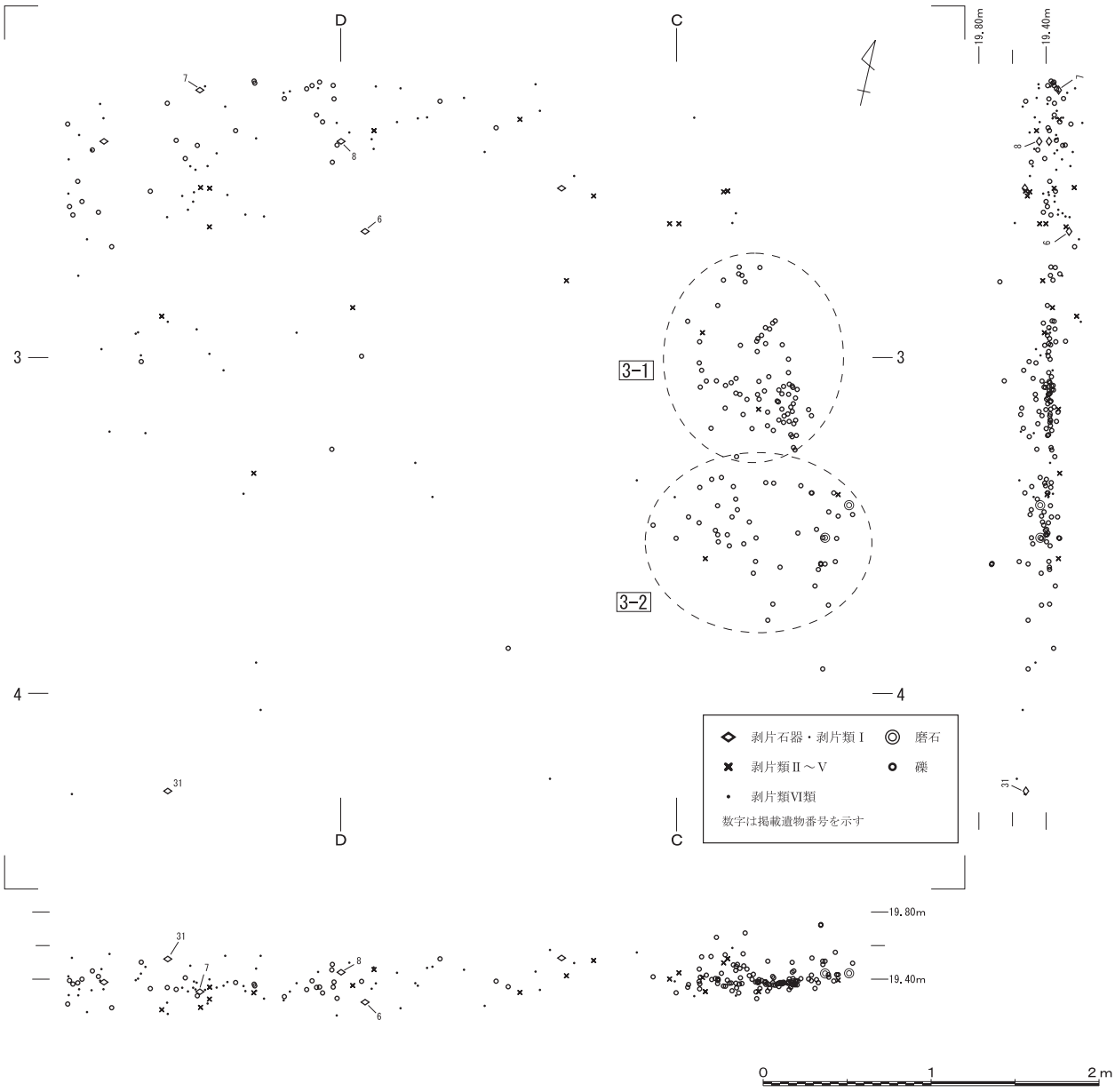
第８図　江川南遺跡第11地点　礫群１　石材別出土分布図（1/40）



第９図　江川南遺跡第11地点　礫群２　器種別出土分布図（1/40）

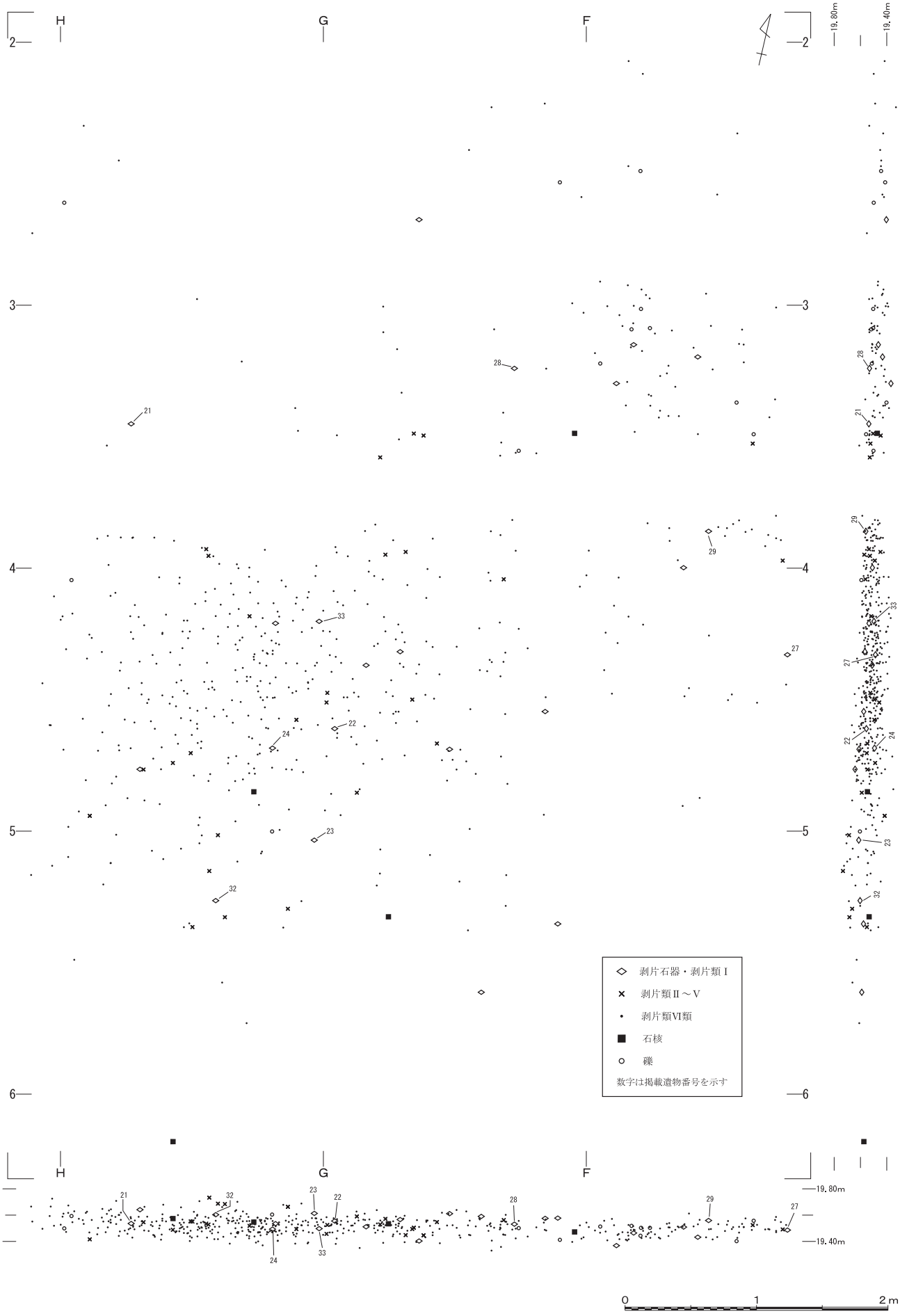


第10図　江川南遺跡第11地点　礫群２　石材別出土分布図（1/40）

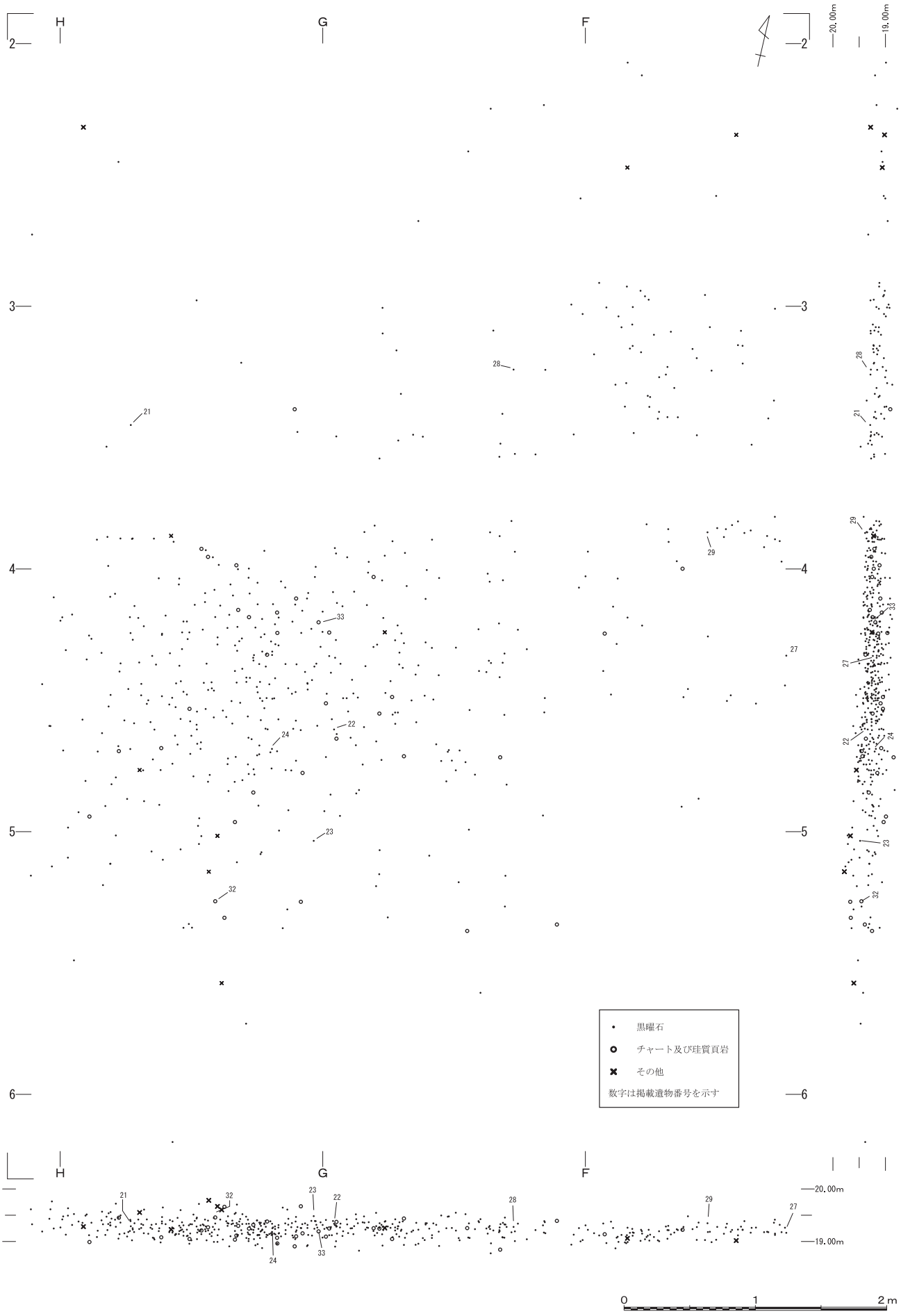


第11図　江川南遺跡第11地点　礫群３　器種別出土分布図（1/40）

第12図　江川南遺跡第11地点　礫群３　石材別出土分布図（1/40）

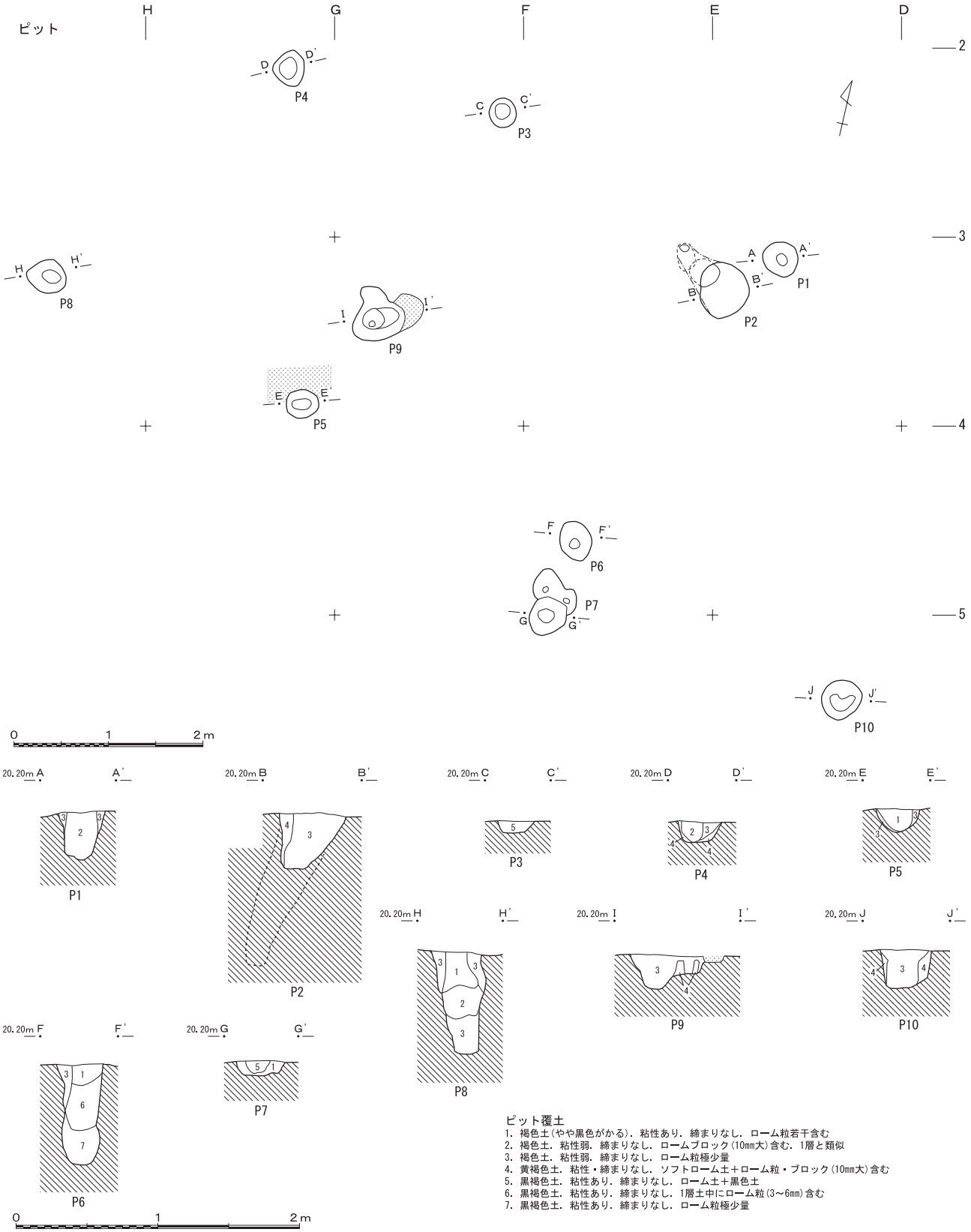


第13図　江川南遺跡第11地点　石器集中部　器種別出土分布図（1/40）



第14図　江川南遺跡第11地点　石器集中部　石材別出土分布図（1/40）

第15図　江川南遺跡第11地点　旧石器時代遺物出土状況　微細図（1/40）

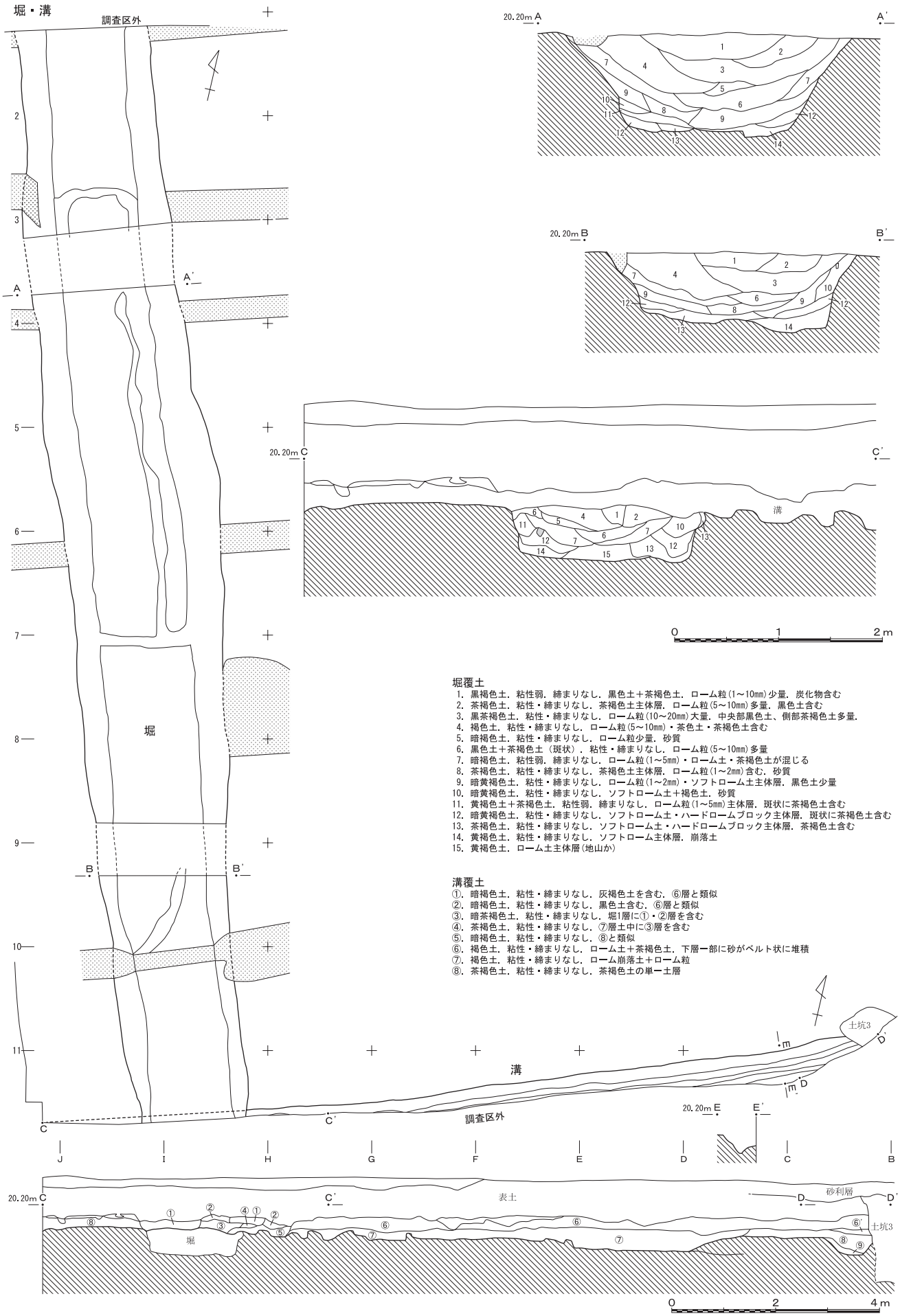


第16図　江川南遺跡第11地点　縄文時代　ピット（1/40・1/60）

第２表　江川南遺跡第11地点　ピット一覧表

図版番号	ﾋﾟｯﾄNo.	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	標高(m)	備考
4・16	1	D3	楕円形	38	34	34	19.64	縄文ピット
4・16	2	D.E3	円形？	56	54	107	18.89	縄文ピット
4・16	3	F2	円形	30	29	11	19.80	縄文ピット
4・16	4	G2	長方形？	33	31	18	19.73	縄文ピット
4・16	5	G3	楕円形	34	30	19	19.80	縄文ピット

図版番号	ﾋﾟｯﾄNo.	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	標高(m)	備考
4・16	6	E4	楕円形	43	33	77	19.42	縄文ピット
4・16	7	E4.5	不整形	70	49	32	19.90	縄文ピット。3基か
4・16	8	H3	方形か	37	35	73	19.27	縄文ピット
4・16	9	F3	楕円形か	58	34	28	19.69	縄文ピット
4・16	10	D5	円形	43	38	37	19.63	縄文ピット

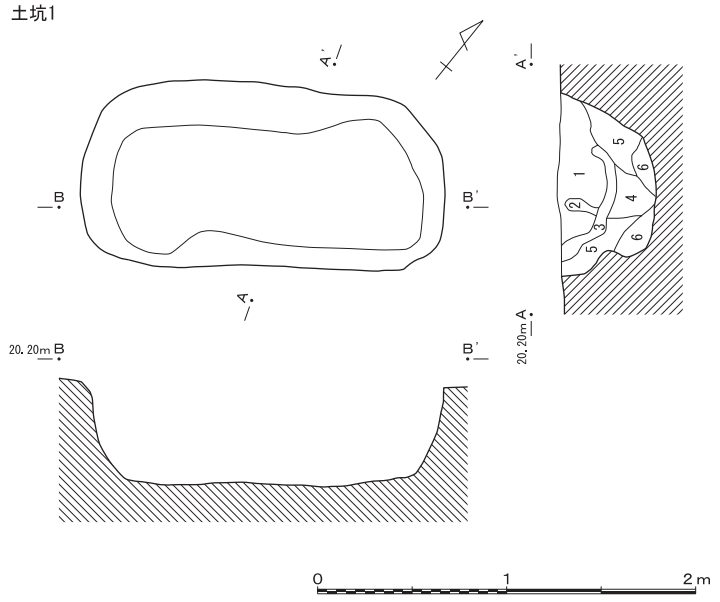


堀覆土
1. 黒褐色土．粘性弱．締まりなし．黒色土＋茶褐色土．ローム粒(1～10mm)少量．炭化物含む
2. 茶褐色土．粘性・締まりなし．茶褐色土主体層．ローム粒(5～10mm)多量．黒色土含む
3. 黒茶褐色土．粘性・締まりなし．ローム粒(10～20mm)大量．中央部黒色土、側部茶褐色土多量．
4. 褐色土．粘性・締まりなし．ローム粒(5～10mm)・茶色土・茶褐色土含む
5. 暗褐色土．粘性・締まりなし．ローム粒少量．砂質
6. 黒色土＋茶褐色土（斑状）．粘性・締まりなし．ローム粒(5～10mm)多量
7. 暗褐色土．粘性弱．締まりなし．ローム粒(1～5mm)・ローム土・茶褐色土が混じる
8. 茶褐色土．粘性・締まりなし．茶褐色土主体層．ローム粒(1～2mm)含む．砂質
9. 暗黄褐色土．粘性・締まりなし．ローム粒(1～2mm)・ソフトローム土主体層．黒色土少量
10. 暗黄褐色土．粘性・締まりなし．ソフトローム土＋褐色土．砂質
11. 黄褐色土＋茶褐色土．粘性弱．締まりなし．ローム粒(1～5mm)主体層．斑状に茶褐色土含む
12. 暗黄褐色土．粘性・締まりなし．ソフトローム土・ハードロームブロック主体層．斑状に茶褐色土含む
13. 茶褐色土．粘性・締まりなし．ソフトローム土・ハードロームブロック主体層．茶褐色土含む
14. 黄褐色土．粘性・締まりなし．ソフトローム主体層．崩落土
15. 黄褐色土．ローム土主体層(地山か)

溝覆土
①．暗褐色土．粘性・締まりなし．灰褐色土を含む．⑥層と類似
②．暗褐色土．粘性・締まりなし．黒色土含む．⑥層と類似
③．暗茶褐色土．粘性・締まりなし．堀1層に①・②層を含む
④．茶褐色土．粘性・締まりなし．⑦層土中に③層を含む
⑤．暗褐色土．粘性・締まりなし．⑧と類似
⑥．褐色土．粘性・締まりなし．ローム土＋茶褐色土．下層一部に砂がベルト状に堆積
⑦．褐色土．粘性・締まりなし．ローム崩落土＋ローム粒
⑧．茶褐色土．粘性・締まりなし．茶褐色土の単一土層

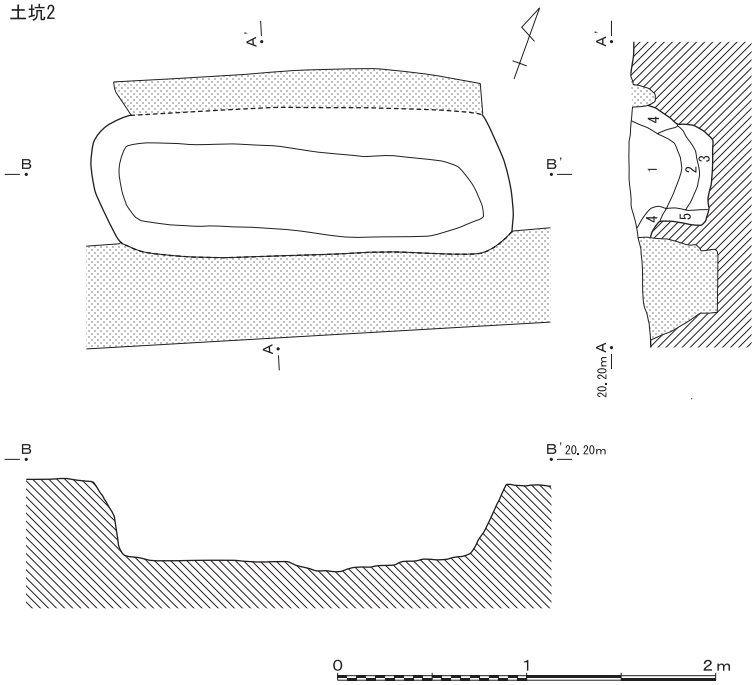
第17図　江川南遺跡第11地点　堀・溝（1/100・1/50）

土坑1



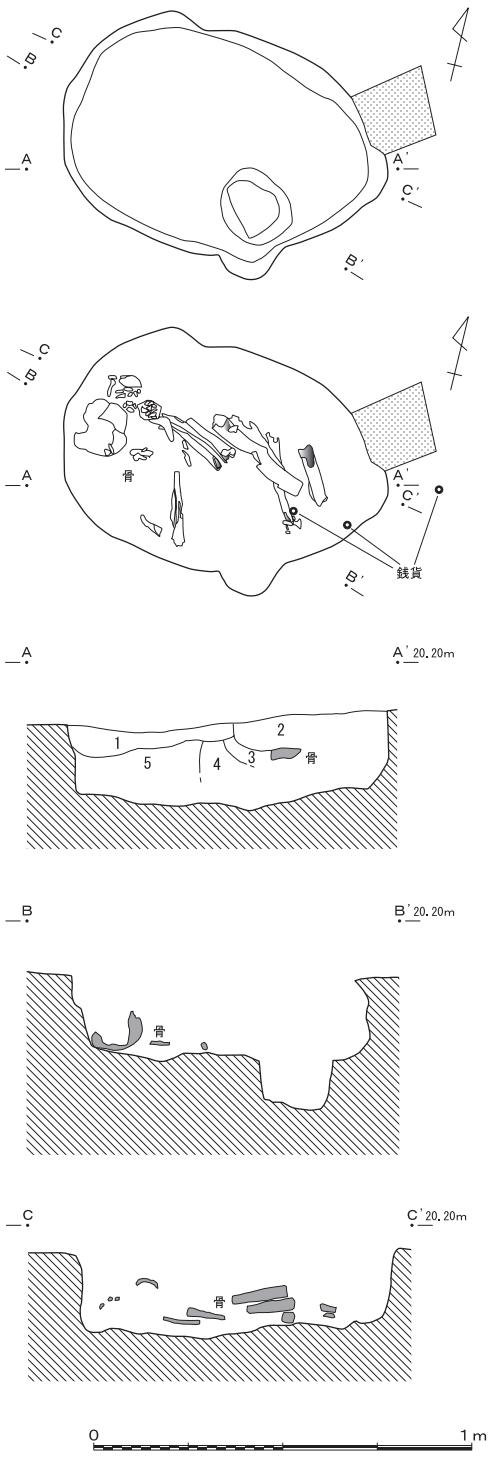
土坑1覆土
1. 褐色土(やや黒色がかる). 粘性あり. 締まりなし. ローム粒若干含む
2. 黄褐色土. 粘性・締まりなし. ソフトロームの崩落土
3. 褐色土. 粘性弱. 締まりなし. ロームブロック(10mm大). 1層と類似
4. 褐色土. 粘性弱. 締まりなし. ローム粒極少量
5. 黄褐色土. 粘性・締まりなし.
ソフトローム土＋ローム粒・ブロック(10mm大)
6. 黄褐色土. 粘性弱. 締まりなし.
ソフトローム土＋ハードロームブロック(20～40mm)

土坑2



土坑2覆土
1. 褐色土(やや黒色がかる). 粘性あり. 締まりなし. ローム粒若干含む
2. 褐色土. 粘性弱. 締まりなし. ロームブロック(10mm大). 1層と類似
3. 褐色土. 粘性弱. 締まりなし
4. 黄褐色土. 粘性・締まりなし. ソフトローム土＋ローム粒・ブロック(10mm大)
5. 黄褐色土. 粘性・締まりなし. ソフトロームの崩落土

土坑4



土坑4覆土
1. 黒色土＋ロームブロック. 粘性・締まりなし.
黒色土主体層. ローム粒・ブロック含む
2. 明茶褐色土. 粘性・締まりなし.
褐色土＋ローム崩落土. ローム粒多量
3. 黒褐色土. 粘性・締まりなし. 1層と類似
4. 茶褐色土. 粘性・締まりなし.
ローム粒主体層. ローム崩落土含む
5. 茶褐色土. 粘性・締まりなし. ローム崩落土. ローム粒多量

第18図　江川南遺跡第11地点　土坑１・２・４（1/20・1/40）

8は、不定形剥片使用・二側縁調整のナイフ形石器。先端をわずかに欠損する。石材は、風化が著しく判別困難だが、おそらく安山岩と考えられる。

9は一括採集遺物で、礫群1または礫群3の付近で検出されたもの。黒曜石製のナイフ形石器。不定形剥片使用・一側縁調整。先端側を欠損する。

10は、黒曜石製の、角錐状石器と考えられる。不定形剥片使用で、先端側を大きく欠損する。

11は、黒曜石製の削器で、小型のエンドスクレーパーと捉えうる。

12は、チャート製の掻器で、剥片ではなく石核を素材とする。

13は、削器で、石材はホルンフェルスまたは安山岩であると考えられる。縁辺の一部に使用痕とみられる微細剥離が認められる。自然面を大きく残す。

14は、ホルンフェルス製の掻器。自然面を大きく残す。

15は、黒曜石製の掻器。縦長剥片を素材とし、一側縁に使用痕とみられる連続した微細剥離が認められる。

16は、ホルンフェルス製の削器。湾曲した刃部が2カ所認められる。

17は、黒曜石製の掻器。縦長剥片を素材とし、縁辺の一部に使用痕とみられる連続した微細剥離が認められる。

18は、ホルンフェルス製のスクレーパー。3カ所に抉入した刃部が認められる。

19は、砂岩製の磨石。一部欠損する。不整円形で扁平な形状を呈し、一面に擦痕が認められる。全体に、被熱による赤化およびタールの付着が認められる。

20〜33は、石器集中部の範囲およびその付近より出土した遺物。20・25・26・30は、一括採集遺物である。

20は、黒曜石製のナイフ形石器。石刃の基部側を先端として使用した製品で、基部調整が施される。右側縁に、使用痕とみられる微細剥離が認められる。

21は、黒曜石製のナイフ形石器。一側縁調整で、切出し形に近い形状を呈する。

22は、黒曜石製のナイフ形石器。横長に近い不定形剥片を使用し、一側縁調整が施される。

23は、黒曜石製のナイフ形石器。横長剥片を使用し、一側縁に鋸歯状の調整が施される。

24は、黒曜石製のナイフ形石器。不定形剥片使用で、一側縁に鋸歯状の調整が施される。全体としては切出し形に近い形状を呈する。基部付近に自然面を残す。

25は、黒曜石製のナイフ形石器。横長剥片使用・一側縁調整。

26は、横長剥片使用の切出し形ナイフ形石器。石材は安山岩。

27は、黒曜石製の角錐状石器。横長剥片を使用し、鋸歯状の連続した側縁調整が施される。

28は、黒曜石製の削器。横長剥片を素材とし、刃部はやや抉れた形状を呈する。

29は、黒曜石製の削器。折断（折損？）した縦長剥片を素材とする。

30は、黒曜石製の削器。鋸歯状の刃部加工が認められる。

31は、黒曜石製の掻器。鋸歯状の連続した剥離が縁辺のおよそ6割の範囲に認められる。ここでは刃部加工と見なしているが、側縁調整とみてナイフ形石器に分類する方が妥当かも知れない。

32は、チャート製の掻器。縁辺の一部に使用痕とみられる微細剥離が認められる。自然面を大きく残す。

33は、チャート製の掻器。縁辺の一部に使用痕とみられる微細剥離が認められる。

34〜40は、礫群1〜3および石器集中部のいずれの範囲にも属さない遺物。34・35・37〜39は、調査区全体の一括遺物である。

34は、黒曜石製のナイフ形石器。折断した不定形剥片を使用し、一側縁調整が施される。

35は、チャート製または珪質頁岩製のナイフ形石器。横長剥片を使用し、両側縁と基部に調整が認められる。

36は、不定形剥片使用・基部調整の小型のナイフ形石器で、頁岩製。調査区北端、G1の深掘区3の範囲内で検出された。

37は、黒曜石製の角錐状石器。縦長剥片を使用する。全体の形状から角錐状石器と分類するが、側縁調整が粗雑であり、RFとする方が妥当であるかも知れない。

38は、砂岩製の削器。

39は、砂岩製の削器。横長剥片を素材とし、縁辺の大部分に刃部加工が認められる。

40は、黒曜石製のRFで、不定形剥片使用。調査区南西部、J8にて検出された。

本地点の旧石器時代遺構の共時性等の性格については、現段階では礫の接合作業を行っていないため、その詳細を述べることは控えたい。ただ、礫群、ナイフ形石器等の製品類、石核、剥片類、砕片等が複数の纏

まりを以って検出されている状況から、複数の異なる性格を持ったブロックが混在する地点であることが予測される。

縄文時代では、調査区北半部においてピット群が確認されている（第16図）。Ｐ１～Ｐ10の10基のピットから成り（Ｐ７は３基の切り合いの可能性有り）、覆土の特徴により縄文時代の遺構と推測されるものである。Ｐ７から縄文時代中期の所産と考えられる土器片が出土している。その規模や配置から、床面を削平された住居跡や、掘立柱建物跡等である可能性があると考えられる。

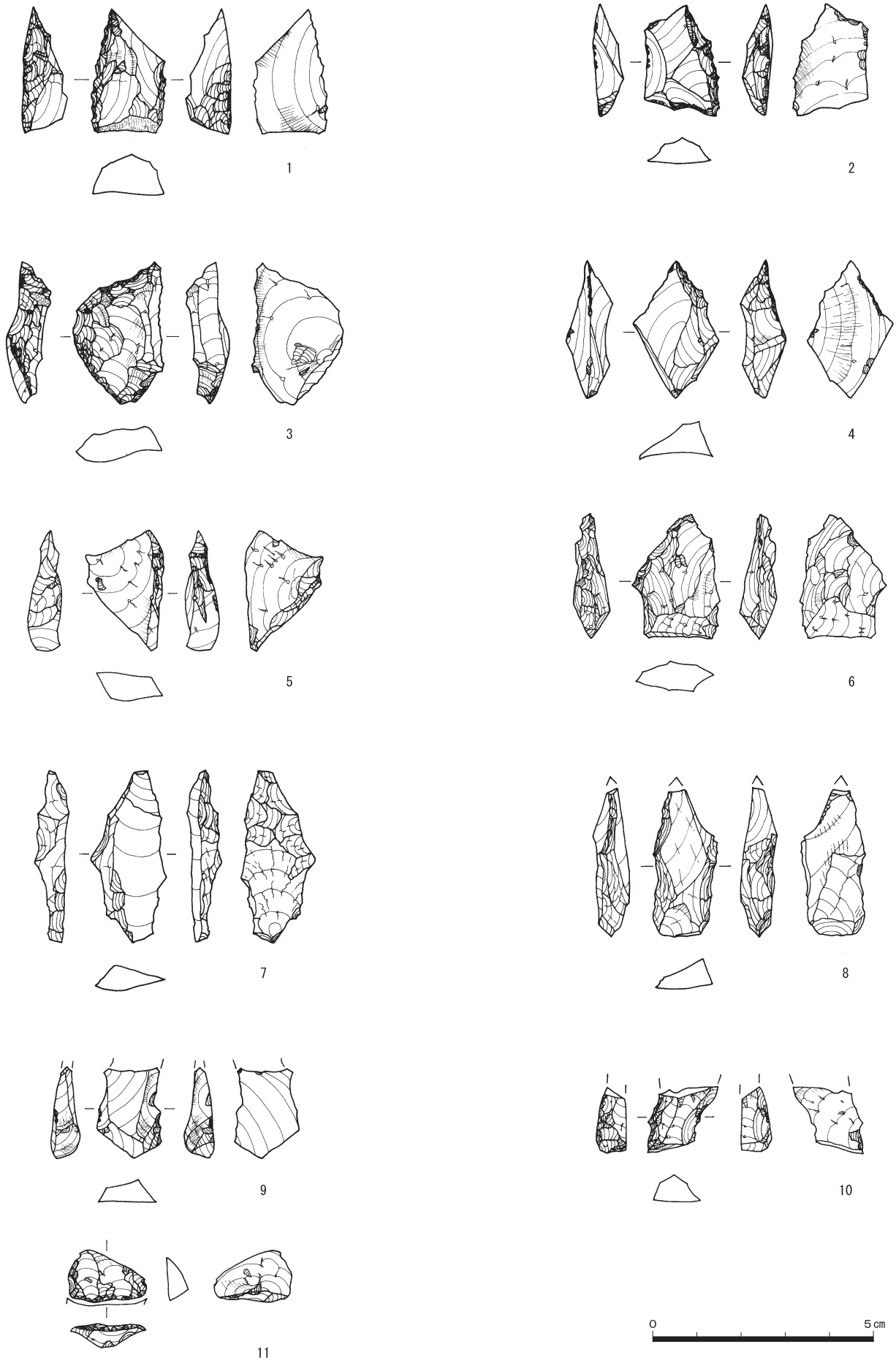
縄文時代遺物は、調査区全体で土器片207点（大部分が中期の所産）・土製円板３点（いずれも欠損品）・石器５点（石鏃２・打製石斧２・RF１）が出土した。これらの中から、図示に適する資料として、石鏃１点を抽出した。

41は、黒曜石製の石鏃。基部は無茎で大きく抉れ、尾部を両方とも欠損する。調査区南東部、D10にて表土中より検出された。（桜井聖悟）

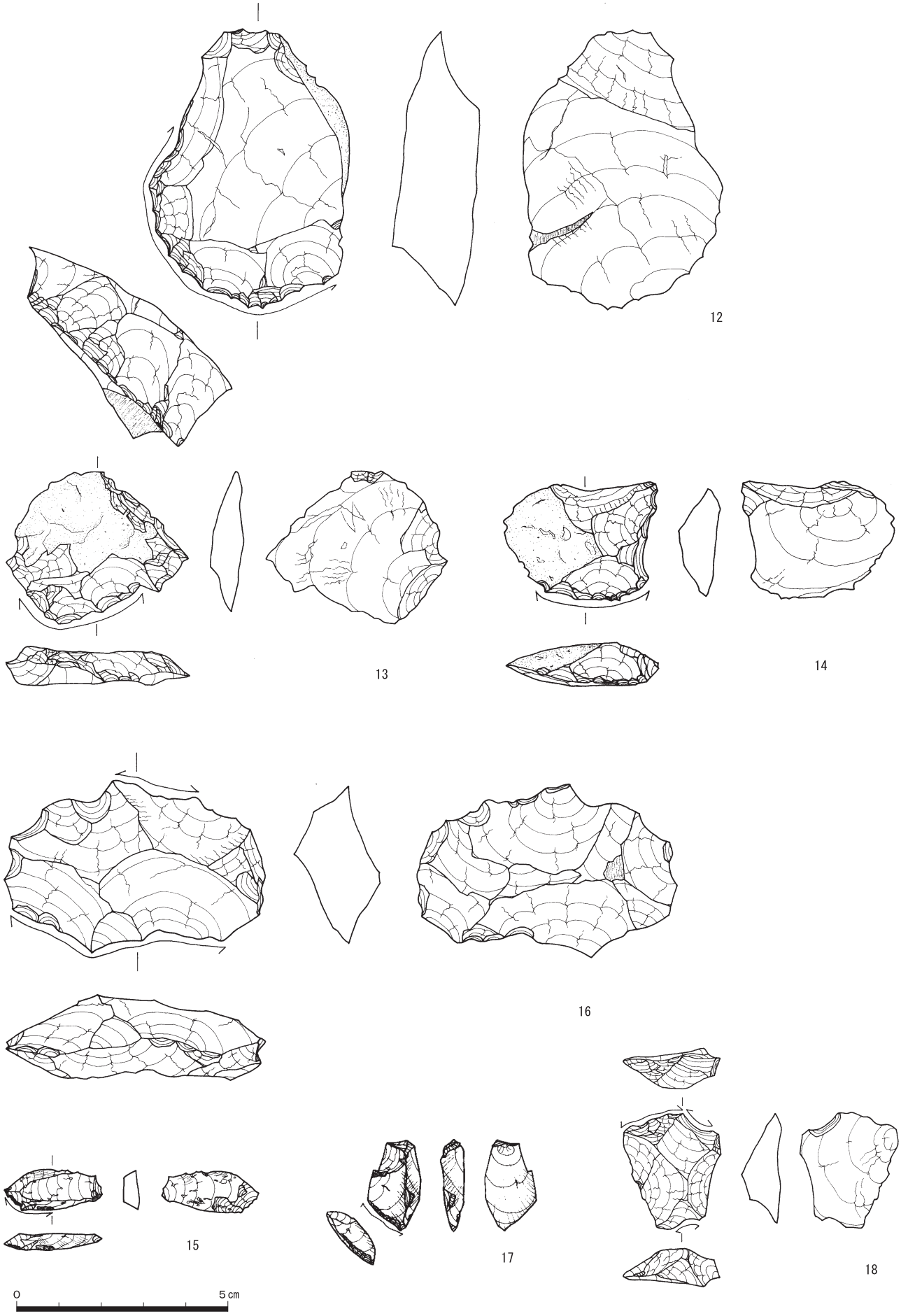
第３表　江川南遺跡第11地点　出土遺物観察表（１）旧石器

〈 〉は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号

図版番号	掲載番号	遺構名	分類（細分） 器種	群	類	分類	石材	遺存部位	長/高（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
19	1	礫群１	ナイフ形石器	Ⅲ	4	ナイフ形石器	黒曜石	A	2.80	1.60	1.00	3.34	鋸歯状の側縁調整／写2
	2	礫群１	ナイフ形石器	Ⅲ	?	ナイフ形石器	黒曜石	A	2.50	1.70	0.60	2.32	鋸歯状の側縁調整／写2
	3	礫群１	ナイフ形石器	Ⅱ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	3.15	2.05	1.00	4.02	写2
	4	礫群１	ナイフ形石器	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	3.10	1.90	1.00	2.64	鋸歯状の側縁調整／写2
	5	礫群１	ナイフ形石器	Ⅲ	2	ナイフ形石器	黒曜石	A	23.70	1.80	0.80	2.46	写2
	6	礫群１	ナイフ形石器	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	2.80	2.00	0.80	3.71	写2
	7	礫群１	ナイフ形石器	Ⅰ	1	ナイフ形石器	ガラス質黒色安山岩 orホルンェルス	A	3.90	1.70	0.80	3.37	写2
	8	礫群１	ナイフ形石器	Ⅲ	2	ナイフ形石器	安山岩？	A	〈3.30〉	1.50	0.80	〈3.64〉	先端わずかに欠損。風化著しい 写2
	9	礫群１	ナイフ形石器？	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	C2	〈2.00〉	1.40	0.70	1.53	先端側を欠損／写2
	10	礫群１	角錐状石器？			角錐状石器？	黒曜石	C2	〈1.5〉	1.60	0.70	〈1.17〉	先端側を大きく欠損／写2
	11	礫群１	スクレーパー類	Ⅰ		削器	黒曜石	A	1.20	1.75	0.50	0.59	小型のエンドスクレーパー／写2
20	12	礫群１	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	チャート	A	6.60	4.80	2.10	70.38	石核素材／写2
	13	礫群１	スクレーパー類	Ⅰ		削器	ホルンフェルス or安山岩	A	3.55	4.35	0.90	11.13	写3
	14	礫群１	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	ホルンフェルス	A	2.80	3.60	1.00	10.16	写3
	15	礫群１	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	黒曜石	A	0.90	2.30	0.40	0.63	写3
	16	礫群１	スクレーパー類	Ⅰ		削器	ホルンフェルス	A	4.10	6.10	2.00	36.46	刃部が抉入／写3
	17	礫群１	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	黒曜石	A	2.10	1.20	0.55	1.05	写3
	18	礫群１	スクレーパー類	Ⅲ		彫器	ホルンフェルス	A	2.70	2.30	0.90	4.33	刃部が抉入／写3
21	19	礫群１	磨石			磨石	砂岩	C	〈10.10〉	9.00	3.50	〈538.00〉	赤化＋タール付着／写3
	20	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅰ	3	ナイフ形石器	黒曜石	A	5.20	1.60	1.10	7.59	石刃を180°反転して使用／写3
	21	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	2.50	1.40	0.70	1.25	写3
	22	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	B1	2.20	1.35	0.50	1.37	写3
	23	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅱ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	2.45	1.00	0.50	0.50	鋸歯状の側縁調整／写3
	24	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	3.50	1.90	0.85	4.07	鋸歯状の側縁調整／写3
	25	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅲ	1	ナイフ形石器	黒曜石	A	3.00	2.20	1.10	4.19	写3
	26	石器集中部	ナイフ形石器	Ⅱ	2	ナイフ形石器	安山岩	B1	2.90	1.60	0.70	2.53	写3
	27	石器集中部	角錐状石器			角錐状石器	黒曜石	A	3.90	1.80	1.20	5.76	鋸歯状の側縁調整／写3
	28	石器集中部	スクレーパー類	Ⅰ		削器	黒曜石	A	2.70	2.00	0.40	2.85	刃部がやや抉入／写3
	29	石器集中部	スクレーパー類	Ⅰ		削器	黒曜石	A	1.20	1.40	0.30	0.44	写3
	30	石器集中部	スクレーパー類	Ⅰ		削器	黒曜石	A	1.15	1.60	0.30	0.26	鋸歯状の刃部（側縁？）調整／写3
	31	石器集中部	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	黒曜石	A	2.10	3.30	1.20	6.47	鋸歯状の刃部（側縁？）調整／写3
22	32	石器集中部	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	チャート	A	3.30	4.10	1.20	13.29	写3
	33	石器集中部	スクレーパー類	Ⅱ		掻器	チャート	A	2.10	1.85	1.00	2.26	写4
	34	調査区(一括)	ナイフ形石器	Ⅲ	1？	ナイフ形石器	黒曜石	D	2.55	2.30	0.90	4.55	写4
	35	調査区(一括)	ナイフ形石器	Ⅱ	2	ナイフ形石器	チャートor珪質頁岩	A	3.00	2.00	0.80	4.58	写4
	36	G-1	ナイフ形石器	Ⅲ	3	ナイフ形石器	頁岩	A	1.70	1.20	0.40	0.53	写4
	37	調査区(一括)	角錐状石器？			角錐状石器？	黒曜石	A	2.20	1.25	0.80	2.11	ＲＦとも捉えうる／写4
	38	調査区(一括)	スクレーパー類	Ⅰ		削器	砂岩	A	5.00	6.70	2.00	61.78	写4
	39	調査区(一括)	スクレーパー類	Ⅰ		削器	砂岩	A	2.15	3.80	0.70	6.02	写4
	40	J-8	剥片類	Ⅰ		ＲＦ	黒曜石	C3	1.30	2.20	0.50	0.94	写4
	41	表土	その他			石鏃	黒曜石	B	〈1.6〉	〈1.5〉	0.30	0.40	縄文の石鏃／写4

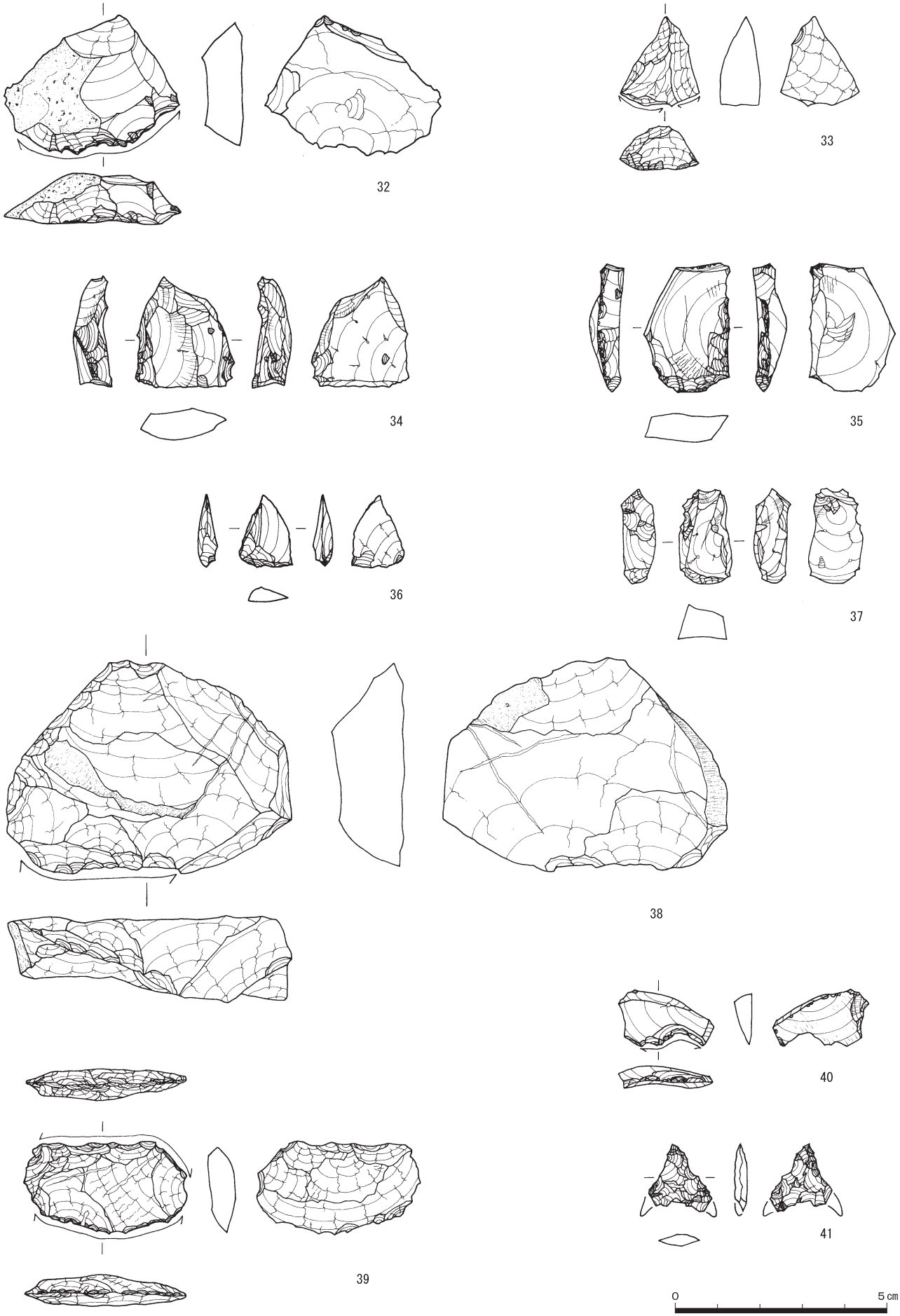


第19図　江川南遺跡第11地点　出土遺物（１）旧石器①（4/5）



第20図　江川南遺跡第11地点　出土遺物（２）旧石器②（4/5）

第21図　江川南遺跡第11地点　出土遺物（３）旧石器③（1/3・4/5）



第22図　江川南遺跡第11地点　出土遺物（４）旧石器④（4/5）

〔古代以降〕

「堀」とした遺構は、上面幅200～300㎝、底面幅160～180㎝、深さ70～90㎝を測り、断面形が逆台形を呈する溝状遺構である。この堀は本地点のほかに第２・５・15・17・19地点で検出されており、第２地点から第11・５地点まで南南東へ進み（主軸方位Ｎ－21°～26°－Ｗ）、第５地点で方向を南東に向きを変える（主軸方位Ｎ－83°－Ｗ）。その先は直線的に進み、亀久保堀跡遺跡へ至る。確認された長さは亀久保堀跡遺跡を含めて約800ｍである。遺物は出土していない。本遺構の時期については出土遺物がないので明確には特定できないが、2002年に行われた第17・19地点及び亀久保堀跡遺跡31街区土留工事調査区でのテフラ分析結果から、掘削年代は古代（９世紀）に遡る可能性も指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社2005）。

溝は調査区の南端で検出されており、南側半分は調査区外である。位置は地番境にほぼ等しく、断面形はＶ字形か薬研形であろう。堀を切っていることから中世以降の区画溝である可能性が高い。

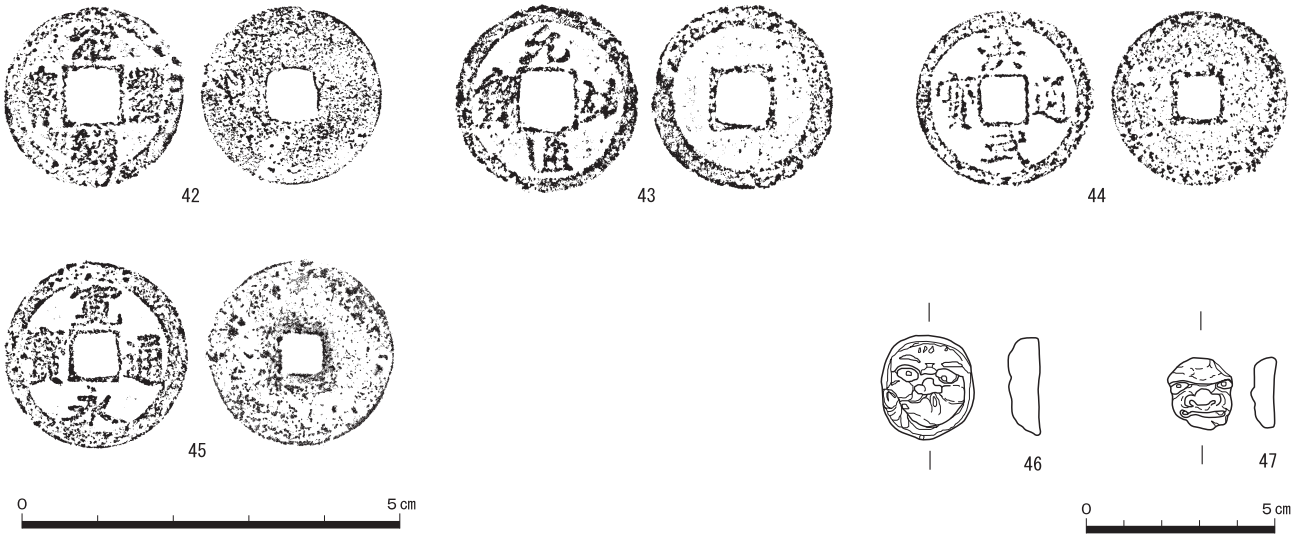
検出された土坑４基のうち、土坑４からは北西頭位・側臥屈位で埋葬されたとみられる人骨が出土した。吉田俊爾氏（日本歯科大学）によれば、この人骨は壮年期の男性１個体分で、頭蓋は後頭骨片・側頭骨片・下顎骨片が主に残っており、そのほか体右上腕骨片、左右の大腿骨大片、左右の脛骨体片などの上・下肢骨片が残っているという。また大腿骨・脛骨の骨質は厚く、作りは比較的頑丈であると述べられている（吉田2005）。また本土坑からは、副葬品とみられる渡来銭が３点出土していることから、中世の土坑墓と考えられる。

出土した遺物は、図示した６点がすべてである。そのうち半数の３点が土坑墓と考えられる土坑４及びその付近から出土した元豊通宝・元祐通宝・洪武通宝といった渡来銭である（42～44）。しかし、これらが厳密に渡来銭か摸鋳銭かは判断できない。46・47は地元で「ドロメンチ」と呼ばれる土製品で、江戸では「芥子面」と呼ばれている。当地では江戸で多く出土する円盤形の泥面子より、こういった芥子面が多出する。しかも鬼や妖怪のような意匠が多い。　（梶原　勝）

第４表　江川南遺跡第11地点　出土遺物観察表（２）中世以降　銭貨・土製品

備考欄の写番号は写真図版番号

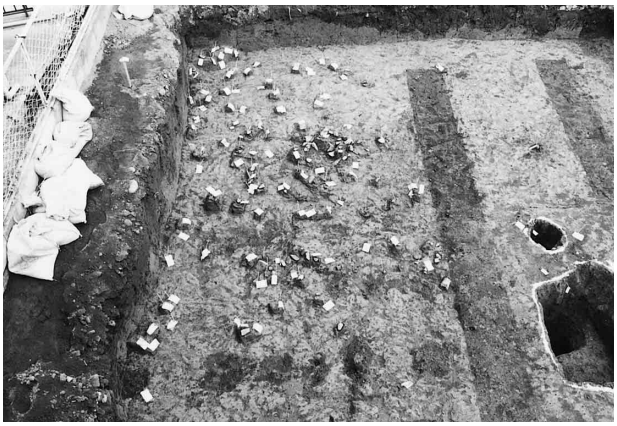
図版番号	掲載番号	遺構名 出土地点	種別・器種	単位㎝　推定＊　残存（） 口径	底径	器高	技法／文様／その他	推定生産地	推定年代	残存／備考
23	42	土坑4	銭貨・元豊通宝	径 2.4	厚 0.15	穿孔径 0.7×0.65	篆書	北宋	元豊元(1078)年初鋳	完形／写4
	43	土坑4	銭貨・元祐通宝	径 2.5	厚 0.1	穿孔径 0.7×0.7	行書	北宋	元祐元(1086)年初鋳	完形／写4
	44	土坑4	銭貨・洪武通宝	径 2.3	厚 0.15	穿孔径 0.6×0.6		明	洪武元(1368)年初鋳	完形／写4
	45	調査区一括	銭貨・寛永通宝 古寛永銭	径 2.4	厚 0.2	穿孔径 0.55×0.55		江戸？	寛永13(1636)年初鋳	完形／写4
	46	調査区一括	土製品・芥子面 火男	幅 2.8	厚 0.9	―	型抜き／雲母付着、裏面に指頭圧痕有り	在地？	近世	完形／写4
	47	調査区一括	土製品・芥子面 妖怪	幅 1.8	厚 0.6	―	型抜き	在地？	近世	一部欠／写4



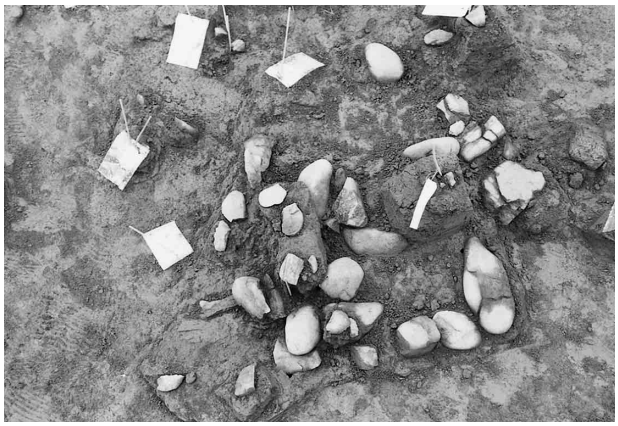
第23図　江川南遺跡第11地点　出土遺物（５）中世以降　銭貨（1/1）・土製品（1/2）

江川南遺跡第11地点　調査区全景

江川南遺跡第11地点　礫群３　出土状況



江川南遺跡第11地点　礫群１　出土状況①

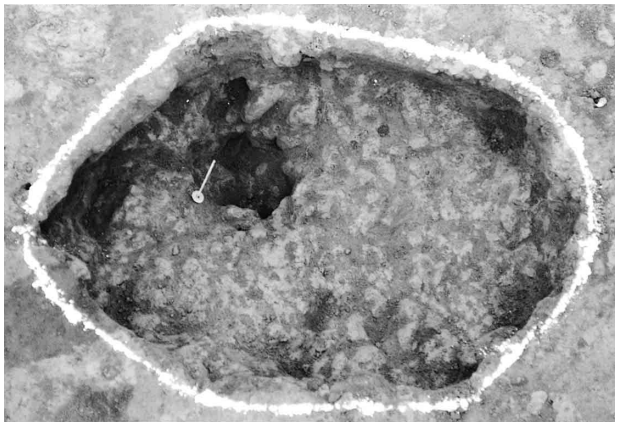


江川南遺跡第11地点　礫群１　出土状況②

江川南遺跡第11地点　礫群２　出土状況①

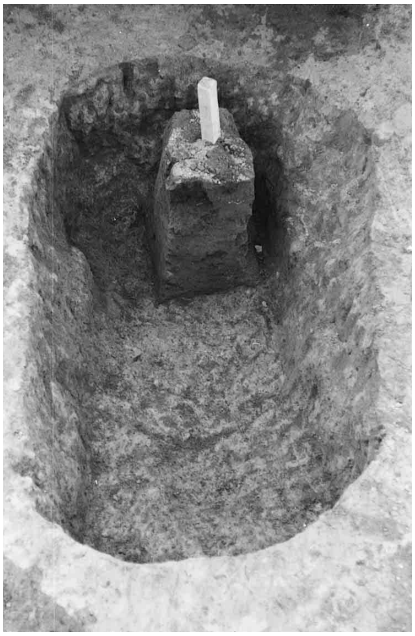
江川南遺跡第11地点　礫群２　出土状況②

江川南遺跡第11地点　土坑４　人骨出土状況



江川南遺跡第11地点　土坑４　完掘

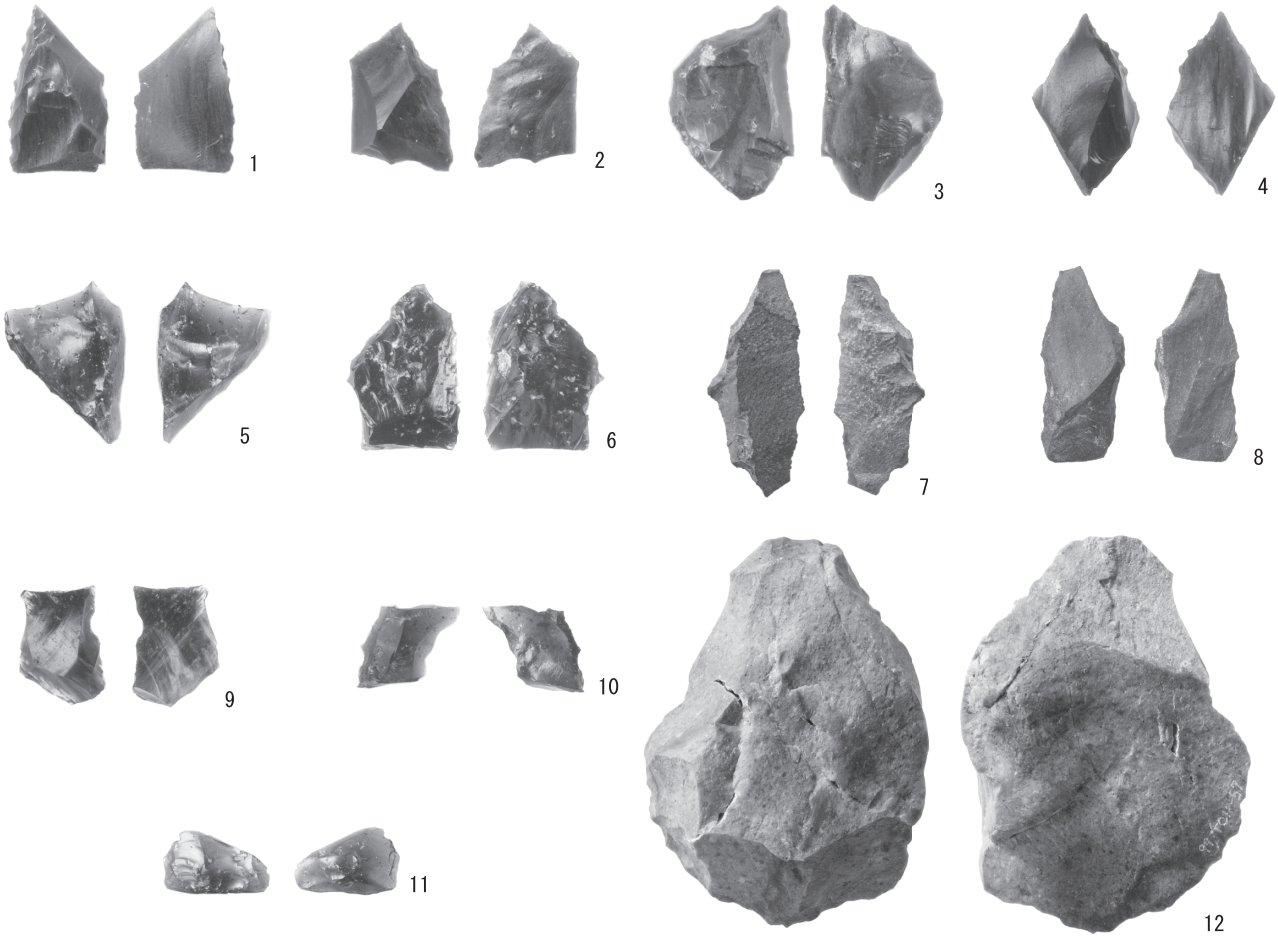
江川南遺跡第11地点（2）・出土遺物①



江川南遺跡第11地点　土坑 1　完掘

江川南遺跡第11地点　土坑 2　完掘

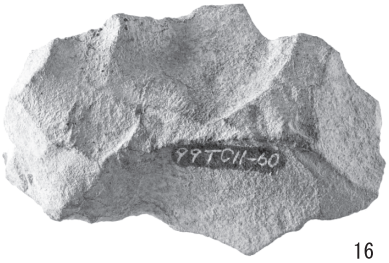
江川南遺跡第11地点　堀

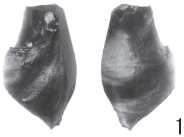


13

14

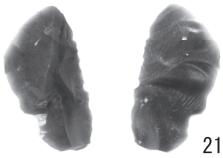
15

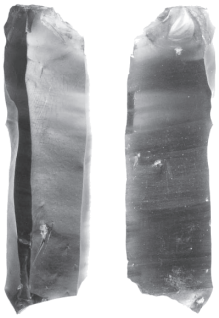

16


17

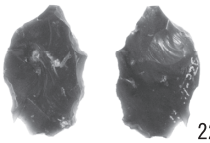
18

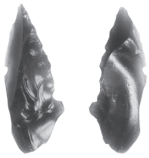
19

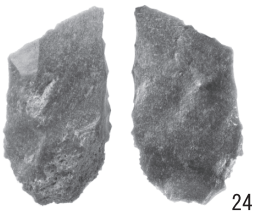

21

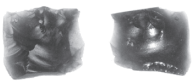


20

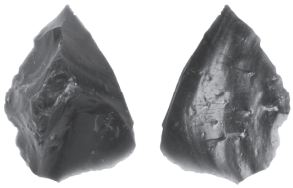

22

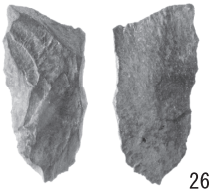

23


24

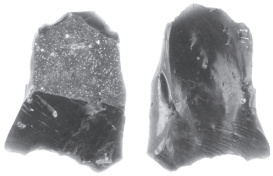

29

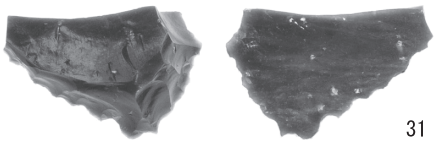
30


25


26

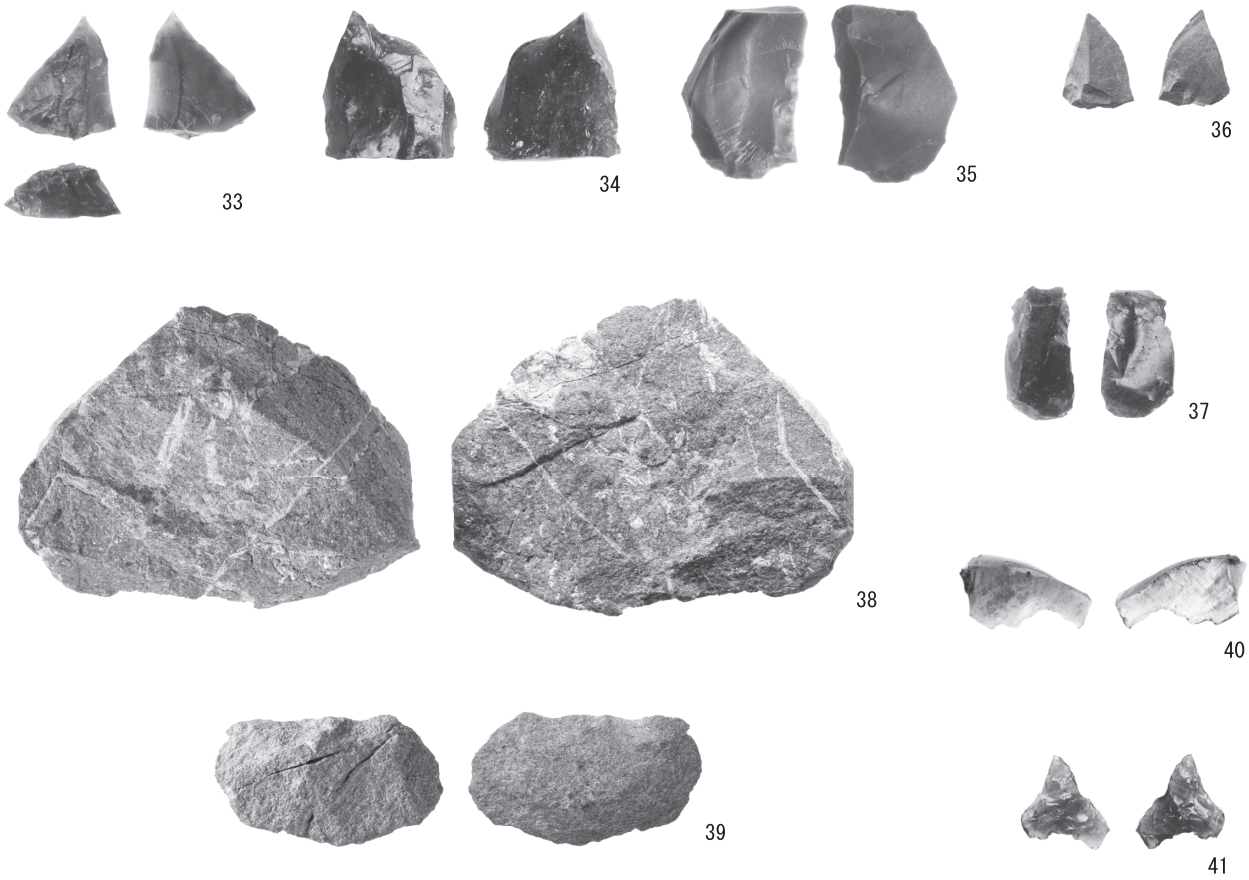
27

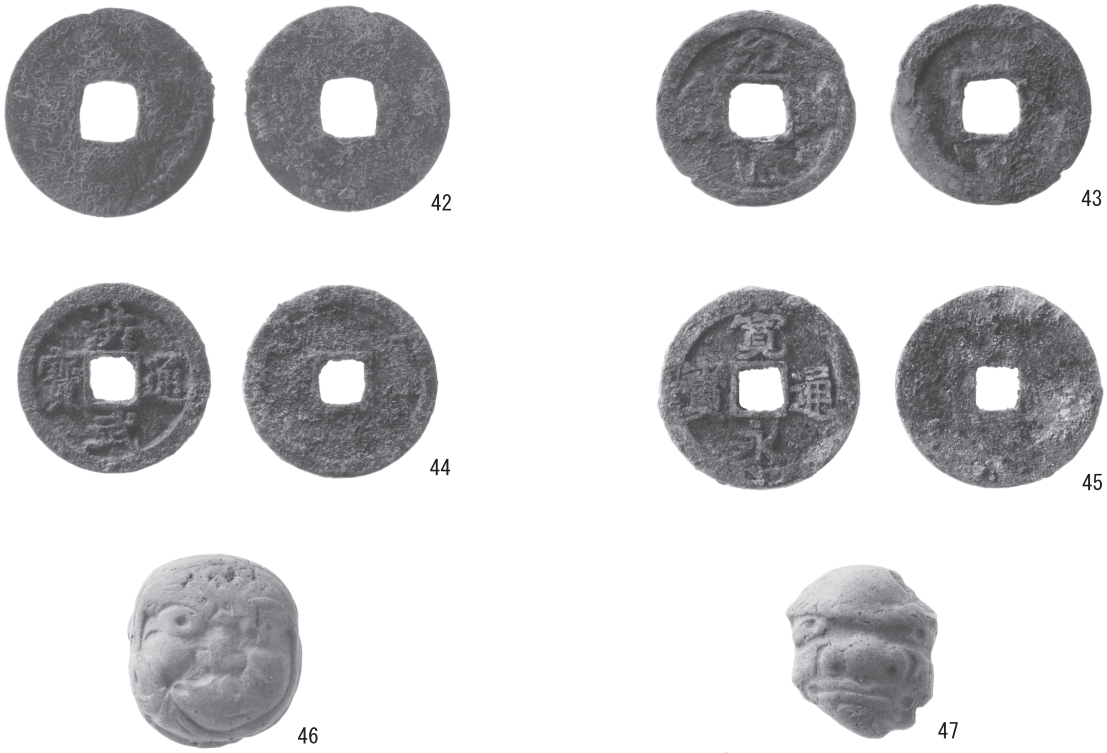

28


31

32

江川南遺跡第11地点（4） 出土遺物③





—江川南遺跡・亀久保堀跡遺跡出土人骨所見—

吉田俊爾（日本歯科大学）

1　はじめに

平成10年10月～平成11年10月の埼玉県大井町教育委員会による町内遺跡の発掘調査において、亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１、江川南遺跡第11地点・土坑４、本村遺跡第86地点・土坑６・土坑11（茶毘跡１）・土坑72（茶毘跡２）から古人骨が出土した。関係者によれば、人骨の所属年代は亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１人骨が17世紀後半以降、江川南遺跡第11地点・土坑４人骨が中世、本村遺跡第86地点遺跡人骨が所属年代不明と考えられている。

人骨は発掘担当者により取り上げられ、後日鑑定のため筆者のもとに届けられた。人骨鑑定の機会を与えていただいた関係者の方々に感謝申し上げる。

2　人骨の出土状況

出土図によると、亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１人骨の出土状態は、北西頭位・仰臥屈位の状態で土葬墓から出土した。この人骨に伴って、かわらけ２枚・銅銭貨６点（このうち５点は新寛永通寶の文銭）・鉄製品１点(釘？)が出土しているという。また、江川南遺跡第11地点・土坑４人骨は北西頭位・側臥屈位（左右不明）の状態で土葬墓から出土した。土坑内から洪武通宝１点、土坑周辺から元祐通宝・政和通宝各１点が出土しているという。本村遺跡第86地点出土人骨については土坑６人骨が土葬骨、土坑11・土坑72人骨が火葬骨であるが、詳細は不明である。人骨の保存状態は総じて良好とは言えないが、出土人骨の中では、非常に脆くなっているものの亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１人骨が比較的良好である。人骨についてはパラフィンで補強し、できるだけ復元に努めたが、自然変形している人骨も多々あり、必ずしも原形に忠実でないものもあることをあらかじめお断りしておく。また、大井町教育委員会からの鑑定リストをいただいてあるが、鑑定リストにある全ての人骨について鑑定することは、骨質崩壊や変形で特徴が失われているため不可能であることをあらかじめお断りしておく。したがって、以下の人骨所見については、比較的保存状態が良好で人骨の所属部位が無理なく同定できるものだけについて主要人骨として記載する。なお、人骨名については和名を用いた。

3　人骨所見

（１）亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１人骨(写真１、２)

出土人骨は壮年期前半(20歳代前半)の女性１個体分である。保存状態はそれほど良くないが、ほぼ全身の骨が残っている。

頭蓋は脳頭蓋と上顎骨・下顎骨とが主に残っている。側頭骨乳様突起は小さい。３主要縫合は内・外板とも骨結合化は認められない。

歯および歯槽の状況を次に示す。

７６５４３２１　１２３４５６７
●６５４３２１　１２３４５６●

ただし、アラビア数字は残存する永久歯、●印は歯槽閉鎖のことをそれぞれ示す。咬耗度はマルチンの第１度、咬合様式は鋏状咬合型である。下顎の左右第２大臼歯(77)については歯槽が閉鎖しているが、未萌出なのか生前に脱落したものかよくわからない。上・下顎のいずれの歯にもエナメル質減形成は認められない(エナメル質減形成はストレスマーカーのひとつで、歯の成長期(乳・幼児期)に栄養失調や病気などによってエナメル質が十分形成されず、線状にへこんでいる状態である。また、窩状のものもある)。

体幹骨は胸椎を主として、そのほか腰椎片や肋骨片が残っている。胸椎体には変形性脊椎症などによる骨棘の形成は見られない。

そのほか左尺骨、左右の大腿骨、左右の寛骨片などの上・下肢骨が残っている。左寛骨の大坐骨切痕の湾曲は大きい（大坐骨切痕の湾曲の角度の大・小は性別判定の精度が高く、女性は大きく男性は小さい)。左尺骨や左大腿骨の作りはきゃしゃである。

（２）江川南遺跡第11地点・土坑４人骨（写真３）

出土人骨は壮年期の男性１個体分である。保存状態は不良である。

頭蓋は後頭骨片・側頭骨片・下顎骨片などが主に残っている。

遊離歯(歯槽から遊離している歯)の状況は次の通りである。

×７６×４３××　××３××６７×
８７６５４×××　×××××××７８

以上のほかに、矮小歯が１点残っているが所属部位は不明である。なお、×印は欠損を示す。咬耗度はマルチンの第１～２度である。エナメル質減形成は認められない。

以上の頭蓋片のほかに、右上腕骨体片、左右の大腿骨体片、左右の脛骨体片などの上・下肢骨片などが主に残っているが、大腿骨・脛骨の骨質は厚く、作りは比較的頑丈である。

（３）本村遺跡第86地点・土坑６人骨

年齢・性別不詳の成人土葬骨１個体分である。主に長骨の細片（最大でも約４×２㎝）と歯冠の破片が残っているが詳細は不明である。

（４）本村遺跡第86地点・土坑11（茶毘跡１）人骨

年齢・性別不詳の火葬骨である。総重量220ｇが残っている。火葬骨の残量が多いこと、火葬後の骨質の厚いこと、骨片に骨端線が見られないことなどからおそらく成人１個体分と思われる。そのほかの詳細は不明である。

（５）本村遺跡第86地点・土坑72（茶毘跡２）人骨

年齢・性別不詳の火葬骨である。総重量約60ｇが残っている。火葬骨の残量は少ないが、火葬後の骨質が厚いこと、骨片に骨端線が見られないことなどからやはり成人１個体分と思われる。

４　まとめ

埼玉県大井町所在の亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１から出土した人骨は壮年期前半（20歳代前半）女性１個体、また江川南遺跡第11地点・土坑４から出土した人骨は壮年期（詳細な年齢は不明、20～39歳）男性１個体、そして本村遺跡第86地点からは年齢・性別不詳の成人土葬骨１個体、年齢・性別不詳の成人火葬骨２個体である。各個体には特別な骨病変は認められない。亀久保堀跡遺跡第17地点・土壙１人骨の下顎の歯77については、未萌出なのか、生前に脱落したものか疑問が残るが、今のところよくわからない。

写真２

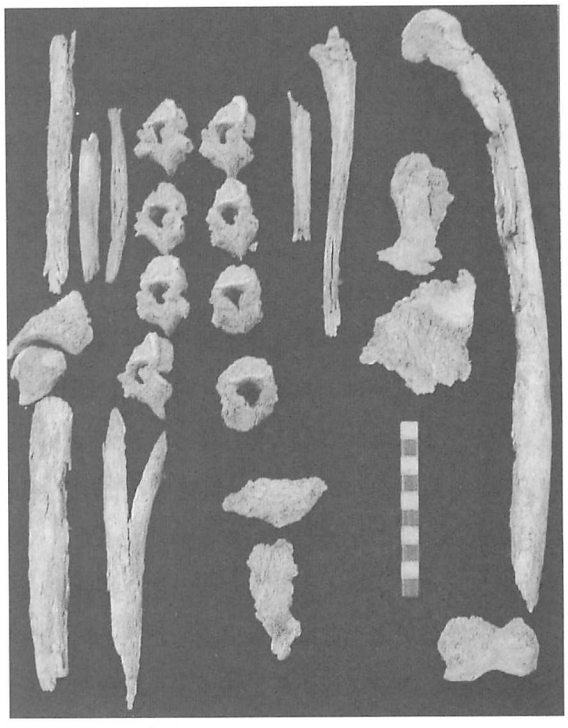


写真３

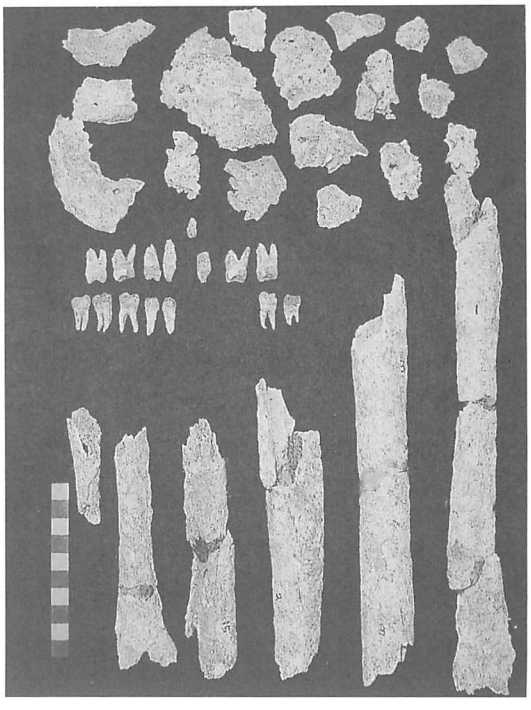


写真１